

中国・パキスタン青年海外協力隊 保健衛生分野隊員巡回指導調査団 報告書

JICA LIBRARY



J1165199(9)

平成 13 年 4 月

青海二

JR

01-01

中国・パキスタン青年海外協力隊保健衛生分野隊員巡回指導調査団報告書

平成13年4月

LIBRARY

**中国・パキスタン青年海外協力隊
保健衛生分野隊員巡回指導調査団
報告書**

平成 13 年 4 月



1165199【9】

序 文

青年海外協力隊事業は、発足以来36年目を迎え、この間71ヶ国に延べ20,000人を超える隊員を派遣してきました。

中国、パキスタンともに隊員派遣の歴史は浅く、中国に対する隊員派遣は1985年10月に派遣協定を締結し、1986年12月に隊員派遣が開始されてから現在に至るまで、約400名の隊員を派遣しました。また、パキスタンに対する隊員派遣は1992年12月に派遣協定を締結し、1995年4月に隊員派遣が開始されてから現在に至るまで、約50名の隊員を派遣しました。

両国において、保健衛生分野は隊員派遣の主要分野であり、中国ではこれまで55名、パキスタンでは18名の保健衛生分野隊員が派遣され、協力を行ってきました。両国ともに保健衛生分野における隊員派遣のニーズは高く、隊員自身の努力もあり受入側の評価も高く、今後もこの分野の隊員派遣は続いていくことと思われまます。

これらの背景を踏まえ、当事務局は平成12年11月16日から11月29日までの間、保健衛生分野隊員巡回指導調査団を中国及びパキスタン国へ派遣しました。その目的は、現在の看護婦を始めとする保健衛生分野隊員の活動進捗状況を調査し、効果的な派遣方針を検討することによって、今後の協力を更に実効あるものにする事です。

本報告書は、同調査団による調査結果を取りまとめたものです。両国における保健衛生分野隊員の活動指針となり、広く関係者に活用されることを望みます。

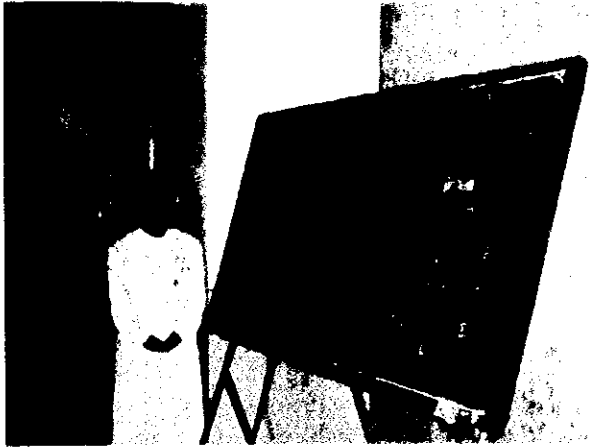
最後に、中国、パキスタン両国へ派遣された隊員をはじめ関係各位の努力と成果に対し敬意を表すとともに、今回の調査にご協力いただいた両国関係各位に対し深く感謝の意を表する次第です。

2001年4月

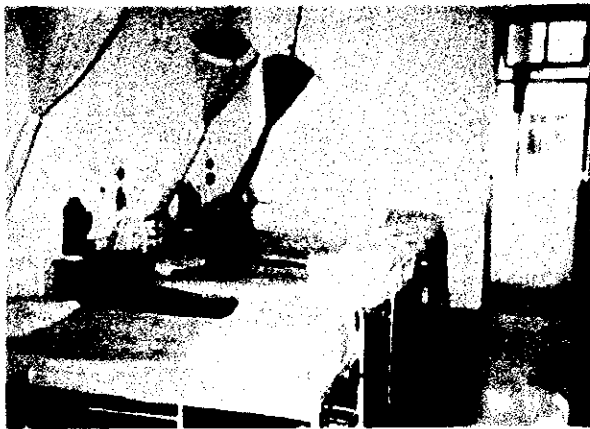
国際協力事業団
青年海外協力隊事務局
事務局長 金子 洋三

【中国】

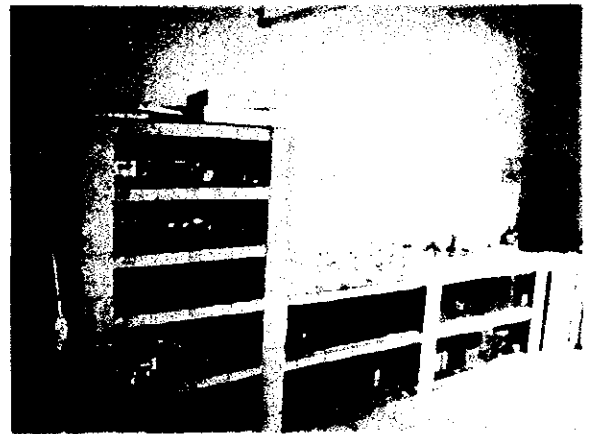
防城港市人民医院



八木隊員と隊員の書いた患者健康教育用黒板（人民医院外来入り口）



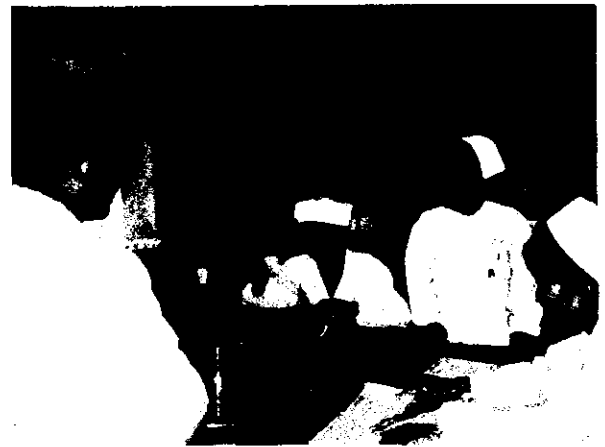
病室



注射準備室



ナースステーションで看護記録中のスタッフナース



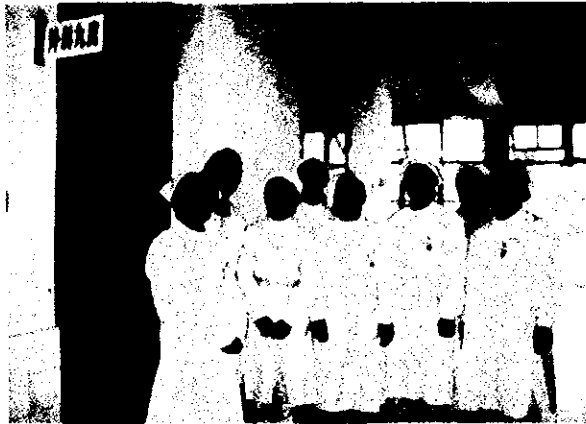
北海市衛生学校附属医院



病棟



製剤室（ここで点滴びんを再生し輸液類を製剤）



看護部長(右端)、スタッフ、看護学生と磯野隊員(左端)



建設中の衛生学校新校舎



看護技術対抗試合出場看護婦の訓練（教育担当が規定の評価表で実技を採点する）



唐山衛生学校



校庭で学年合同の体育



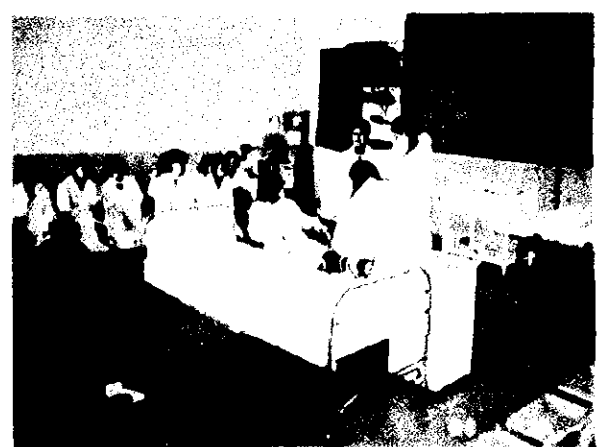
臨床看護教研究室での照会隊員



周春美 基礎看護学副主任による看護技術の講義（初代隊員のC/P日本研修経験者）



学生による看護技術の演習





基礎看護学演習室（初代隊員の隊員支援経費でベッド床頭台等を購入整備した）



演習室に準備された口腔ケア用セット

看護婦隊員会議



在中国看護婦隊員全11名

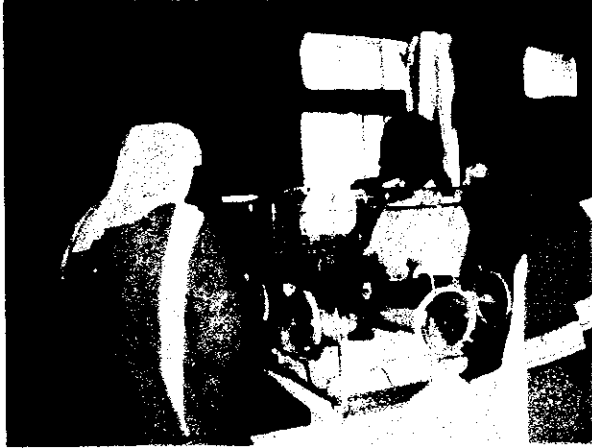


看護婦隊員会議



【パキスタン】

PIMS 小児病院



小児病院 PICU で緊急用手人口呼吸を行う神谷隊員とスタッフ

ラウルピンディー総合病院リプロダクティブ・ヘルスセンター (RHS)

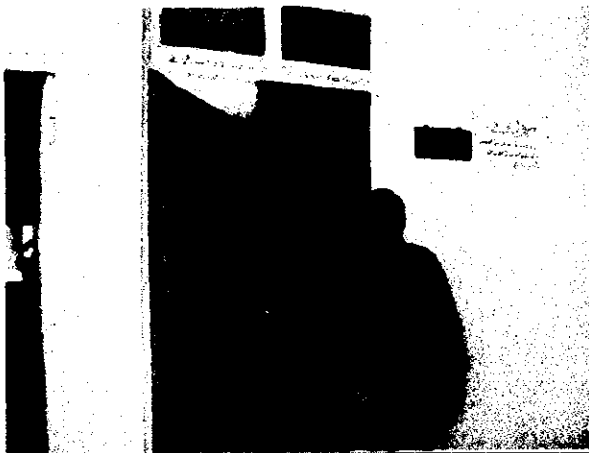


手術室で準備中の作本隊員とスタッフ



リカバリールーム

PIMS リプロダクティブ・ヘルスセンター



男性の手術を行う Theatre Nurse



高見隊員とセンター長



MCH の手術室を借用して行っている RHS の不妊手術



ラビ°ンゲイ家族福祉センター(FWC)



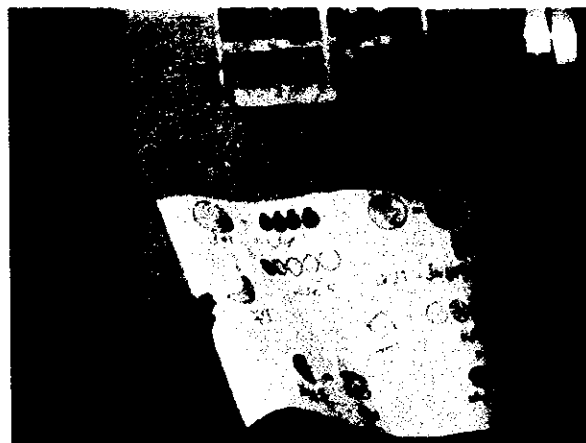
手術準備室の器材



鈴木隊員の「肥満」ワークショップ



ワークショップ前の体重測定

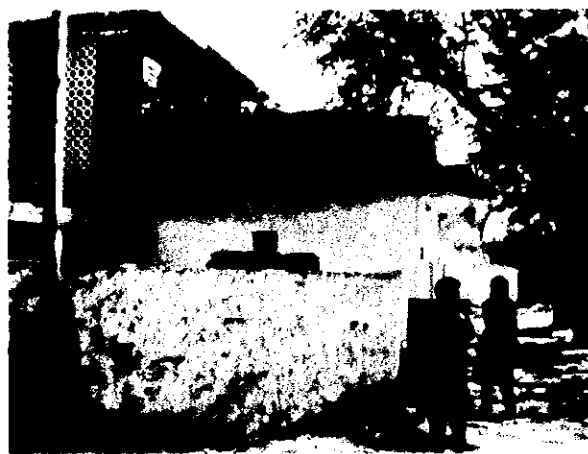


ワークショップ° : ラマダンの太らない食べ方

アリブール村地方開発プロジェクト



アリブール村遠景(イスラハートより 20km)



村の MCH(藤原隊員の活動拠点)



MCH 内の健康器具(韓国 PT ボランティア設置)

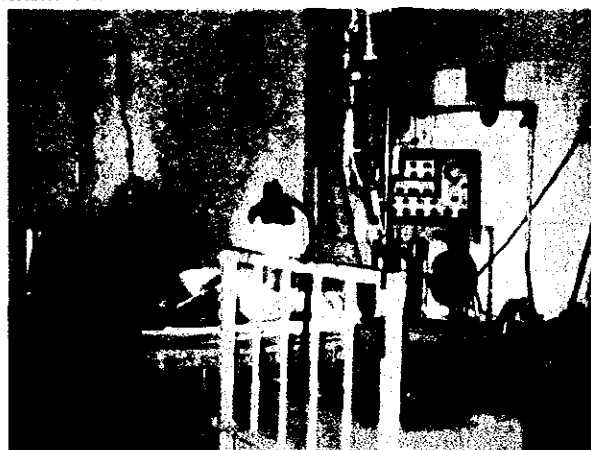


猪俣修隊員(村落開発)の指導した紙漉き

ファティマ記念病院 (隊員派遣希望の病院、在ラホール)



PICUのスタッフと学生



ICUで人工呼吸器装着中の未熟児と母親

目 次

序文
写真

I 調査の概要

I-1 調査の目的	1
I-2 調査の背景・経緯	1
I-3 指導・調査項目	1
I-4 調査団員	2
I-5 調査日程・協議先及び面談者	3

II 中国巡回指導調査結果

5

II-1 活動現場の巡回指導結果	5
1) 防城港市人民医院	
2) 北海市衛生学院附属病院・北海市衛生学院	
3) 唐山市衛生学校	
II-2 看護婦隊員全体会議	9
1) 会議開催の主旨	
2) 会議の概要と技術顧問の指導・助言	
II-3 中国事務所との協議	10
1) 要請開拓・協力活動方針について	
2) 隊員の活動状況と問題点・要望	
II-4 中国巡回指導調査の総括・提言	
1) 看護教育協力型活動の方向性	
2) 病院看護協力型活動の方向性	

III パキスタン巡回指導調査結果

8

III-1 活動現場の巡回指導調査結果	14
1) パキスタン医科学研究所小児病院	
2) ラワルピンディー総合病院リプロダクティブ・ヘルスサービスセンター	
3) パキスタン医科学研究所内リプロダクティブ・ヘルスサービスセンター	
4) ラワルピンディー家族福祉センター	
5) 社会福祉省アリプール村地方開発プロジェクト	
III-2 看護職隊員全体会議	18
III-3 政府関係機関の要望等の確認および協議	18
1) 保健省看護アドバイザーとの協議人口省	
2) イスラマバード地域事務所との協議	
3) 人口省ラワルピンディー地域事務所との協議	
4) 人口省との協議	
5) パキスタン看護協議会、ファティマ記念病院訪問	

Ⅲ－４	パキスタン事務所との協議	20
	1) 隊員の活動状況と問題点・要望の確認	
	2) 要請開拓・協力活動方針等の協議	
Ⅲ－５	パキスタン巡回指導調査の総括・提言	22
	1) 要請開拓の方向性	
	2) 隊員派遣上の留意点	

【参考資料】

	在中国青年海外協力隊配置図 (2000.11.1)	1
	在パキスタン国協力隊派配属先別派遣状況 (2000.10.1)	2
	(中国)	
1.	看護婦活動会議資料	3
2.	看護婦活動会議資料議事録	5
3.	派遣受入希望調査表 (河北省 化市人民病院)	9
4.	中国の看護	10
	(パキスタン)	
5.	派遣受入希望調査表 (ラウルピンディー総合病院)	12
6.	社会福祉省組織図	13
7.	保健省組織図	14
8.	パキスタン看護教育制度	15
9.	人口省組織図	16
10.	Report of the Secretary General/Pakistan Nursing Federation	17

I 調査の概要

I-1 調査の目的

本調査は看護婦を中心とする保健衛生分野隊員の活動状況を視察し、今後の隊員活動をより効果的かつ円滑に進めるため、専門的見地から協力活動および派遣方針について協議するとともに適切な助言を与えることを目的とする。

I-2 調査の背景・経緯

(中国)

中国には、看護婦を中心に保健衛生分野の隊員15名が派遣されている。看護婦隊員は従来医療現場型の派遣が多かったが、帰国隊員等からC/Pの不在や、要請内容と実際の隊員活動に対する現場の期待にズレが大きいなどの問題が指摘されていた。そのため活動しやすくかつ効果的な基礎看護教育分野での協力に派遣の重点を移行してきた。現在11名の看護婦隊員のうち5名が衛生学校で整体看護（病気だけに着目せず人間としての患者を中心に据えた考え方による看護）の基礎看護教育への導入に協力している。中国の病院看護の中核を担う看護婦の基礎看護教育は従来、一般中等教育後（中卒）3年間の教育であったが、近年の国家政策として中卒5年間教育が打ち出された。各衛生学校看護科は現在移行過程にあり、隊員のこの分野での協力に対する要請が高まっている。また、近年病院看護にも整体看護の導入が積極的に行われるようになり、その実践に必要な看護過程・看護診断システムの普及の必要性は高まったことから病院への派遣要請も増加している。このような状況を踏まえ、病院看護型隊員および看護教育型隊員双方の活動現場を視察することにより、両者の抱える問題点および課題を調査し、技術指導を行うとともに今後の派遣方針を現地事務所と協議する必要がある。

(パキスタン)

パキスタンにおける協力隊派遣は1995年から開始され、保健衛生分野の派遣は累計で21名（うち看護職隊員14名）である。パキスタンの第8次国家開発計画（1993～1998）との整合性もあるが、要請内容や隊員活動としての適正については専門的見地を交えて協議する必要がある。また、現在活動中の隊員から活動上の問題や助言要請もあることから、保健省、人口省、社会福祉省に配属されている病院活動型2名、リプロダクティブヘルス分野の地域活動型4名の看護婦・保健婦隊員の技術指導を行うとともに、今後のパキスタンにおける保健衛生分野隊員の派遣方針についても現地事務所と協議する必要がある。

I-3 指導・調査項目

- (1) 派遣中の看護職隊員への技術指導
 - ・活動現場の視察、C/Pの配置状況、技術レベルの実態
 - ・これまでの活動成果と問題点の確認、要望の把握
 - ・上記を踏まえた隊員活動への技術指導
- (2) 政府関係機関の要望等の確認および協議
 - ・保健衛生分野における看護職隊員要請・活用方針
 - ・配属先の要望、受入体制の実態と方針

(3) 現地事務所との協議

- ・ 隊員の活動状況と問題点・要望の確認
- ・ 要請開拓・協力活動方針等の協議

I-4 調査団員

(1) 技術指導及び調査

戸塚 規子 (青年海外協力隊事務局 保健医療分野技術顧問)

(2) 企画・調整

中国	羽田一三男	JICA中国事務所協力隊調整員
	市橋美帆	同 協力隊調整員
	範 順喜	同 通訳

パキスタン 川本晃子 JICAパキスタン事務所協力隊調整員

I-5 調査日程・協議先及び面談者

中国巡回指導調査日程および面談者

月/日	曜日	巡回指導調査行程及び面談隊員	面談者
11/16	木	14:00 北京着 中国事務所打合せ 18:00 北京発 22:40 北海着	中国事務所次長 大石千尋 調整員 羽田一三男 広西自治区科技厅 張 曉飛 北海市科技局 揚 兵 防城港市科技局 陳 世珍
11/17	金	7:30 北海市 9:30 防城港着 「防城港市人民医院」 八木恵美子隊員 (H11/3) 12:00 防城港発 14:30 北海(合浦)着 「北海市合浦衛生学校附属医院」 磯野裕見子隊員 (H11/2) 17:30 両配属先・区科技との打合せ	院長 李 祀松 副院長 叶 潤富、周 重東、 王 洪強、黄 涛 総婦長 胡 愛青 外科病棟婦長(C/P) 吳艶玲 院長 李 躍進 副院長 張 強作 総婦長 梁 麗賢 看護教育担当(C/P) 黄志英
11/18	土	8:30 北海発 12:30 北京着 所長挨拶 15:00~18:10 「看護婦隊員会議出席及び意見交換会」 活動中の全看護婦隊員 11名 18:30 看護婦隊員と懇談、隊員技術指導	所長 桜田幸久 出席調整員 市橋美帆、 羽田一三男
11/19	日	11:30 隊員技術指導、 調整員との打合せ 14:30 北京発 17:00 唐山着 18:00 配属先・省科技との打合せ	河北省科技厅 董 玉慧 唐山市科技局 劉 大利 唐山衛生学校幹部
11/20	月	8:00 「唐山衛生学校」 照屋ゆかり隊員 (11/2) 11:30 唐山発 13:30 北京着 中国事務所報告会 隊員技術指導 18:30 北京発 21:50 イスラマバード着	学校長 王 慶中 副校長 晏 宇印 高 汝平 党書記 崔 建文 教務長 常 紅 教務書記 劉 立国 臨床看護教研室 主任 王 麗君 教師 王敬華 (隊員C/P・小児科医師) 李 (中医師) 宋 (内科医師)

パキスタン巡回指導調査日程及び面談者

日付	曜日	業務内容	面談者
11/20	月	21:50 イスラマバード着	
11/21	火	9:30 JICA事務所表敬 10:30 PIMS訪問 (小野山、神谷隊員) 11:45 保健省訪問 15:00 日本大使館表敬	Madam Numataz (看護部長) Mrs.Clara Pasha (看護アドバイザー)
11/22	水	9:30 ラワルピンディ総合病院 RHSセンター (作本隊員) 11:45 PIMS・RHSセンター (高見隊員) 13:15 保健省訪問	Dr. Shabana Bari (センター長) Dr. Fakhara (センター長) Mrs.Clara Pasha (看護アドバイザー)
11/23	木	9:30 人口省イスラマバード地域事務所 11:00 家族福祉センター (鈴木隊員) 13:15 人口省ラワルピンディ地域事務所	Mr. Jahanzed Tahir (DPW所長) Mrs. Razia Makhdoomi (センター長) Mr. Ch Bashir Ahmed (DPW所長)
11/24	金	9:30 人口省 11:00 アリプール村 地域開発プロジェクト (藤原隊員) 14:00 看護職隊員全体会議	Dr. Naushaba Chaudhry (総局長) Mr. Pervaiz/Ms. Almas (責任者Mr. Babar不在)
11/25	月	10:00 社会福祉省 11:15 JICA事務所への報告	Mr. Ashraf (プログラム・オフィサー)

II 中国巡回指導調査（2000年11月16日～20日）

II-1 活動現場の巡回指導結果

1) 防城港市人民医院

八木恵美子 11年3次隊 看護婦

(1) 防城港市人民医院の概要

1993年より現体制となり、病床180床、32の診療科別外来患者総数300～400/日、CT、超音波、Xray等の設備を持つ。手術件数は消化器外科、甲状腺等300～400/年。

機能：市の保健医療及び予防機能を担う地域4病院の中核総合病院、外国人船員の医療

職員：約200名、患者対看護婦数の割合＝1：0.4人

将来構想：2級甲病院から3級病院への昇格、500床規模病院、看護レベルの向上（看護過程・看護診断の実践、高等教育看護学生の実習受入れ）

隊員のC/P：外科病棟婦長 主管護師 呉艶玲38歳 経験20年（中卒）

(2) 病院の隊員に対する期待（看護の国際的状況に近づくことを目標に据えた上で）

・整体看護の普及と定着、・患者観察能力の向上と患者教育の充実

(3) 八木美恵子隊員の活動状況と技術指導

八木隊員の活動は、初代隊員ということもあり、当初は院内の環境整備、特に院内に散乱したゴミ、床の汚れの改善から始まった。病院の国家2級甲申請の時期と隊員活動が相俟ってかなり改善し、職員の意識も高まってきているが、現在使用済み針・汚染医材料等の危険物処理の徹底に苦慮している。また、活動現場の外科病棟では期限表示のない注射薬品の品質管理（古い在庫の上に新規請求品を補充する）に問題を感じている。

整体看護の実践については中国の場合かなり問題が多い。例えば中国の医療システムは、患者を1～3の重症度によって等級を決め、看護診断を用いた看護計画立案やその実施、看護記録の記載等はそれぞれ等級によって違いがある。等級決定は医師の指示で行われ、2、3級の患者の看護計画立案は必要とされない。口腔ケア、身体清拭等も医師の指示によって行われる。また、衛生局の監査を意識して整然とした記録を重視するため、実測値が記載されることもあり、看護婦の整体看護に対する意識も、「上からの指示」「なぜ看護計画が必要なのかわからない」、「面倒くさい」といったレベルの者が多い状況である。八木隊員が看護部から依頼されて行った看護診断の講義に関心を示すスタッフもまだ数人である。

八木隊員は中国語の筆跡がきれいなことを買われ、院内の患者教育用黒板を書くことを任されるなど病院内での信頼も得て期待され、人間関係も良好であり積極的に活動している。

活動の今後については、入院患者の実態から、患者教育の充実を図るためには地域住民の健康教育や疾病予防活動の必要性を感じ、病院が実施している巡回診療への同行を希望しているがまだ病院側にその必要性を理解してもらえていないとのことであった。地域総合病院の看護の向上について考えるためには、地域住民の生活や保健医療の実態を把握しておく必要もあるのではないかと技術顧問から助言があったということで、再度希望を出してみるのも一策ではないかと話し合った。八木隊員はおおすじでは自立して活動できており、看護婦隊員全体会議を企画するなどリーダーシップも発揮して安定した活動ぶりであった。

具体的な技術指導は以下のとおりである

・薬品の品質管理について

期限表示のない注射薬品の病棟における品質管理方法について、病棟の現状を視察した上で、1種類の薬品に2つの収納箱を使い、手前の箱が空になった時点で新規請求し、後の箱を手前に出す管理方法の実行について助言した。

・整体看護の病棟における実践について

これについては前述のように中国の場合かなり問題が多く、視察時点での助言としては実態把握の域を出ず、看護ケアの実践について医師に指示を出すよう看護婦の側から働きかける必要性などについて病棟婦長をまじえて意見交換する程度であった。しかし、こうした防城港市人民医院の現状は、一病院の問題ではなく、中国の大半の病院が抱える現状であり、隊員要請動機の根幹をなすものでもあるため、活動中の看護婦隊員全体が共通課題として取り組む必要を隊員自身も感じている。今回の巡回指導を機会に全体会議を持つ動機の1つであり、会議の席で意見交換を行った（中国看護婦隊員全体会議議事録参照）。

2) 北海市衛生学院附属病院・北海市衛生学院

磯野裕見子 11年2次隊 看護婦

(1) 北海市衛生学院附属病院の概要

衛生学院附属の医療機関として1985年に開設され衛生学院と衛生局の管轄下にある。病床数100床、入院3,200人/年、外来120,000人/年、脳外科、胸部外科を含む手術件数1300/年であるがCT設備もなく、診療密度が高いわりに設備は十分でない。

機能：県内第2の規模、患者の9割は北海市民であり87万市民対象の市基幹病院である。

将来構想：2級甲病院を目指す。技術を重んじる中国看護の特徴とも云える広西自治区衛生庁主催の技術対抗試合があり、看護婦の技術向上の一環として毎年挑戦している。視察時に経験3年目看護婦の院内訓練を見学した。技術レベルとしてははかなり高い看護婦がいる。

隊員のC/P：看護部教育担当 護師 黄志英25歳 経験7年（中卒、現在大卒資格取得中）

病院は正式にC/Pを決めていないが、隊員は活動に合わせ黄氏や総婦長をC/Pとしている。

(2) 病院の隊員に対する期待

- ・整体看護に基づいた外科病棟看護の改善、患者指導マニュアルの作成、
- ・衛生学校の教育の現状把握と教員への日本の看護、看護教育の紹介

(3) 磯野裕見子隊員の活動状況と技術指導

磯野隊員は初代であり、活動当初は職員の手洗い励行の推進、救急カートの改善など基本的な看護業務改善に着手し、手洗いについては総婦長に意見書を提出し総婦長指示が出たため院内に定着しつつある。外科看護に関しては、術前オリエンテーション、術後回復指導の紹介、手術件数の多い白内障手術患者に対する術前指導パンフレットの実用化など改善に取り組んでいる。病棟だけでなく看護部に机をもらいデスクワークの時間も取れており、活動に対する病院側の信頼と理解は得られているが、看護職員の意識改革を伴う業務改善活動の成果があがるまでにはかなりの時間を要すると思われる。磯野隊員もその課題については十分承知しており、院内での活動だけでなく患者心理を重視した術前術後看護について誌上発表することなども考えている。磯野隊員は、病院長、総婦長、婦長の信頼を得て人間関係も良好であり、総婦長の了解のもとに疾患別外科看護マニュアルの作成や感染防止ガイドライン作成を検討するなど院内における活動の方向性は明確であり、今後の隊員活動上の懸念は特になく思われた。

具体的な技術指導は以下のとおりである。

・資料、情報の提供

整体看護の普及に関して病棟の個別指導には限界を感じており、活動の対象や方法に関して視野を広くとる考えを持っているため、日中看護学会への論文発表や雑誌の投稿について考慮すべきこと、論文指導協力、C/Pの日本研修等について質問があり助言した。また院内感染対策基準としてCDCが発表した「SSI (Surgical Site Infection) 防止のためのガイドライン」の詳細資料送付について併せて約束した。

(4) 北海市衛生学院

放課後で時間もなかったため校庭からの見学のみであったが、副校長である病院長の案内で附属病院に隣接する衛生学院を見学した。開校は1958年であり、看護、放射線、公衆衛生士、医士（医師助手）、母子衛生医士等を要請する専門学校である。学生数2,000名、職員150名を擁し、広大な敷地内に校舎だけでなくかなりの数の学生宿舎を持ち地方からの学生も多い。現在校舎を新築中であり、完成とともに看護科は5年制教育を開始する予定である。協力隊に対しては日本の看護や看護教育の紹介を期待しているが、学生指導への協力要請については、学生実習をマンパワーとしている病院の実状からか、その構想はないようであった。

3) 唐山市衛生学校

照屋ゆかり隊員 11年2次隊 看護婦

(1) 唐山市衛生学校の概要

1951年3月開校の中等医療専門学校、敷地7万m²、建物4万m²。1980年中国衛生部重点学校認可、1982年中国教育委員会重点学校認可という中国東部における名門校とされる。学科は看護科以外に口腔、医士、中医、助産、病理科等があり、26教研室364名の職員を擁し、校長、書記、3副校長、教務所主任、教務課主任の6名の幹部教員が統括する。学生数は看護科2,500名（総学生数5,200名）で中卒4年制及び5年制教育であるが、5年制の1年次生210名は高卒3年制の教育を始めており、現在高等職業技術学院として認可申請中である。

隊員のC/P：小児科医師（女性）王敬華

(2) 学校側の協力隊員に対する期待

臨床看護教研室（1999年9月新設）において臨床看護学講義方法の改革及び学校の推進する看護教育改革に協力する。後任についても同様。

(3) 照屋ゆかり隊員の活動状況と技術指導

照屋隊員の配属部署は、当初の要請内容であり前2代の隊員の活動部署でもあった基礎看護学ではなく、新たに設けられた臨床看護学（内科、外科、小児、老人等分野が多岐にわたる）の教研室に変更された。そのため協力内容が異なりかなりとまどいがあったと同時に、担当分野の教育内容の理解、教科書の把握にかなり時間を要した。しかし、そうした中で看護教育改革に関する学生・看護婦へのアンケートに協力し、経営陣への提言に参画するなど、活動を進めてきた。臨床看護教研室の主任は1代目隊員のC/Pとして日本での研修を経験し、米国での研修経験者でもあることから、仕事上の上司としてよき理解者であると同時に生活面でも良き援助者である。また、学内においては看護教育体制改革の推進者でもあり、照屋隊員の提言や企画の上層部へのパイプ役であるが、非常に多忙でありなかなか相談の時間がとりにくい状況がある。同僚教員は内科等の各科の講義を担当する医師で日常の接触を殆ど持てない状況に苦慮していたが、秋より小児科の医師が正式に

た。C/Pは臨床看護教研究室のリーダーの役割を期待されている人物であるが、看護学の理解や看護過程・看護診断など理論の理解はできても、実際の学生への教授は無理である。照屋隊員のC/Pとなることによって日本の看護や看護教育の学習を期待しているようであり、日本で研修させたいという学校側の期待もある。照屋隊員もその方向で日本語習得の支援や看護の理解について支援している。

今後の活動としては、整体看護の患者中心の考え方を教育に取入れる方策として教科書の副読本的な参考書の作成を計画しているが、その必要性理解のために日本の看護教育や看護の現状を紹介する試みを積極的に行っていこうとしている。照屋隊員の活動に対して学校側の理解も得られるようになり、理学療法士隊員を要請している唐山市内の病院から整体看護に関する講義依頼をされるなど、対外的な活動にも積極的に関わろうとしている。また、学生の臨床実習指導に多くの問題を見出しており、今後の活動課題としている。新しい分野で問題が多く、隊員自身実践能力もあるが、今後の活動のあり方としては、優先順位を決めて活動の焦点をしぼっていく必要があるのではないかとと思われる。

具体的な技術指導は以下のとおりである。

・ C/Pの日本研修について

医師は看護教師であることは現在の中国では当然の事実であるが、日本の看護教育現場や臨床でそれを理解し、受入れてもらうことは簡単でない。不可能でないとしてもかなり根回しが必要であり、中国事務所とよく相談する必要があること、受入れ先の目途をつけておくことも考えなければならないことなどについて助言した。

・ 学生の臨床実習指導について

学生に学内で整体看護の教育をしても、臨床実習の現状は、学生は病院のマンパワーとなり、指導体制が殆ど皆無の状況であることから学習効果が期待できない。そのため教育改革と平行して臨床の受入体制や学生の臨床実習指導に関する提言や活動をしていくためには、まず中国の看護教育のしくみを正確に把握する必要がある。しかし、情報提供してくれる教師もあいまいなようであり、現時点では十分に正確な情報を把握できていなかった。この点について正確な情報を得る必要性、それを基に学内教育・臨床指導の連携を視野に入れた協力の方向性等について話し合った。(その後の情報で、学生の臨床実習は学内の臨床実習課の教員が国家衛生部の方針に沿って実習病院や学生の配置を決めていることが明らかになった)

(4) 配属先との協議・提言

中国東部における名門校と称されるだけに、整った環境と教員陣による教育が行われている実感を持ったが、今後も隊員要請を継続する場合には以下の点を留意してほしいと提言した。看護婦隊員はあくまでも同職種をC/Pとして技術移転を行っていくことが原則であり、照屋隊員のC/Pが小児科医師である現状はあくまでも移行期の例外と考える。今後臨床看護学講座の充実のために隊員を要請するのであれば、看護職の教員が常駐する体制が前提となる。

II-2 看護婦隊員全体会議

11月18日 15時～18時

出席者 看護婦隊員11名、市橋調整員、羽田調整員、戸塚技術顧問

1) 会議開催の主旨

調査の背景の項で述べたように、中国における看護婦隊員11名の活動は病院活動型と看護学校活動型がほぼ半数づつである。看護婦活動会議資料（資料3頁）にあるように、隊員に共通する活動上の問題としては中国における看護・医療レベルの向上に伴う隊員活動内容の多様化、中国の看護制度・看護体制理解の必要、JOCV活動の中国側の理解取りつけなどであり、共通する課題は整体看護の普及である。これらは隊員個々では取り組みや解決が困難であり、以前より隊員会議等全員集合の折に情報交換の機会をもってきた。また、活動をより円滑且つ効果的に行うために、隊員間の問題の共有化や課題学習、看護過程事例集の作成など隊員間の連携による新たな活動形態について検討するの必要を感じていた。今回、技術顧問の巡回指導訪問を機会に全体会議を持ちたいという隊員の希望があり、中国事務所の配慮によって開催された。

2) 会議の概要と技術顧問の指導・助言

全体会議開催に先立って技術顧問に同行した八木、磯野隊員以外の9名は、前日より病院、学校活動2グループにわかれてグループ討議を行い、日本の看護教育との相違、中国の求める隊員活動、看護過程・看護診断活用の実態と問題点、看護過程事例集作成と普及方法の検討、グループ活動計画の立案等について検討され、活動の方向づけと今後の課題の明確化が行われた。

会議の詳細は中国看護婦活動会議議事録（資料5頁）のとおりであるが、技術顧問の助言の概要は以下のとおりである。

(1) グループ活動の今後の進め方について

個々が活動を効果的に進めるという意味でのグループ活動の実施については賛成である。活動を進めるにあたっては、まず過去の中国看護婦隊員活動の歴史を知ってほしい（「クロスロード」中国派遣10年の座談会記事を必読することを助言）。そこから先輩諸姉の苦労と布石あつての今があることがわかり、同時に中国の看護、看護職者あつての隊員活動であることを忘れてはならないことが理解できる。

活動の具体的な進め方としては、①隊員配属先の整体看護の実態に関する情報を共有する（看護過程・看護診断の記録用紙と活用状況、整体看護の考え方に関心をもつ看護管理者、看護婦等の有無）、②形から入る中国のやり方を否定せず、結果を急がず、納得して実施するための時間やきっかけを待ち、結果が同じであればOKの意識で臨む、③看護過程の事例は日本の事例をそのまま使わず中国の看護事例に近づける、④事例集には標準看護計画だけでなく「看護過程とは何か」が理解できる総論を入れる、⑤事例集の書式は現在中国の臨床で使用しているものと連動させ補足版のようなマニュアルのほうが根つきやすいのではないか。

(2) 日中看護学会について

日本看護協会と中華護理学会（中華医学会に属する全国規模の看護専門職の学術団体）共催で隔年に中国で開催される日中看護学会（中国名は中日護理学会）には、隊員活動の紹介と看護交流の輪を広げる意味で、1995年から何人かの看護婦隊員が発表および参加し

てきた。2001年9月に開催予定の学会にも、グループおよび個人で応募する準備をしており、応募抄録について話し合い、今後指導助言を行うことについて承諾した。

(3) 看護婦意識調査について

配属施設の看護婦や教員の看護に対する考え方を把握するために意識調査が有効ではないかという考えがあった。これに対しては、意識調査の実施は、その国の文化、教育、社会背景等を十分に考慮する必要がある。また、考察にあたって日中の違いを「良い、悪い」で判断しがちであり注意を要する。更に、中国ではアンケートは国家の許可が必要ではないか。そうした状況から、できればすでにデータとしてあるものを活用したほうがよいむね指導した。

(4) 隊員の雑誌購読中止に伴う資料・情報の入手策について

各人が雑誌を購読する方法がベストだとは思わない。活動に必要な参考書・雑誌等を事務所に購入していただき共同使用する、インターネットで情報をとれるようにするなど、時代にあった有効な方法を、今後調整員の方々と検討していくよう指導した。

(5) 看護婦隊員の選考について

以前より中国の要請に対しては、その内容から単に経験年数だけでなく教育、管理を含め豊富な経験のある看護婦を派遣するようになってきた。今後も傾向は変わらないと考えるが、応募状況は教員や看護管理経験者の応募は稀少であるため、臨床指導経験、病棟リーダー経験を必須条件としている現状である。それぞれ全力を出していい活動をしておられるが活動にあたって不安も大きいと思う。今後可能な方法として派遣前研修があるが、まずは技術顧問が看護教育および看護管理概論の講義を派遣前に行うことについて、JOCV事務局と相談し実施していきたいと考えている。

(6) 隊員からの問題点・要望への対応

全隊員から技術顧問の訪中前に提出されていた「活動状況・グループ活動に関する意見書」に基づき、主に技術顧問に対する質問を中心に各人に対し助言を行った。また、活動上何らかの行きづまりや困難を感じている隊員4名については、短時間ではあったが会議後に個別面談を行った。一名の隊員以外は面談をしているなかで、各自が自分自身で何らかの解決方法あるいは活動の方向づけを見出し、特に今後の活動に問題はないと考えられた。

II-3 中国事務所との協議

1) 要請開拓・協力活動方針について

(1) 看護学校への隊員派遣の方向性

唐山衛生学校は照屋隊員で3代目になり、学校側の隊員活動に対する理解と活動の効果は十分にあがっている。具体的には初代および2代目が活動した基礎看護学講座では、日本でのC/P研修を終えた中国人看護教師による整体看護に留意した授業展開が可能になっていた。

今後はこうした教員によって講座内の充実を図っていくことが可能と考えられる。現在隊員を派遣中の他の看護学校もいずれこうしたレベルになっていくことが考えられる。したがって今後の隊員活動の方向としては、①照屋隊員のように基礎看護学以外の講座の教育改革に協力するかたちと、②学生の指導体制が殆ど皆無である実習病院の改善に協力するかたち、の2点が考えられる。①については、C/Pとなる教員に看護職を得にくいという中国の現状に対しては時間をかけてアプローチしていく必要がある。②については、中国事務所も要請開拓を始めており、今回、唐山衛生学校の実習病院である河北省 化市人民

医院から派遣要請が出されたことから（資料9頁）、臨床指導経験者を派遣し、衛生学校配属の隊員との連携によるモデル活動とする試みについて協議した。

（2） 病院への隊員派遣の方向性について

中国における病院活動の要請内容は、現在何らかのかたちで整体看護を臨床看護に導入することに対する協力である。隊員が活動中の病院では、病院の国家基準の昇格を目指す病院幹部や看護管理者には看護レベルの向上に対する意気込みはあっても、C/Pの意義の理解をはじめ隊員活動の体制をどのように整えるかを模索中であり、看護職員も現状に対する問題意識はうすい。こうした状況は当然であり、それ故隊員を要請するということがも云える。しかしながら隊員活動の効果をあげるために現状を踏まえた要請開拓および派遣上の留意が必要であり、あらためて協議し確認した。

要請開拓時および派遣上の具体的な留意点としては、

①病院幹部の隊員要請に対する具体的な期待を確認する。隊員派遣の目的は全病院的な理解を促す必要性を確認する、②C/Pの必要性の理解を促しC/P予定者の位置づけ・教育背景を確認する、③できるかぎりC/Pと面談し隊員派遣の目的、協働の重要性の理解を促す、④隊員は看護部長直属の配属とし、常時はC/Pの管理範囲である病棟で実務を行いながら活動することの効果について看護部長の理解を得る、⑤2代目や後任の派遣要請の是非は、初代隊員の活動状況の病院側、隊員自身の評価をもとに客観的に行う。特に病院の隊員活動に対する具体的な期待や活動上の問題に対する取り組みの姿勢に留意して決定する。⑥看護学校と連携し、実習病院として指導體制の改善を希望する病院への派遣を優先する、⑦選考にあたっては臨床経験5年以上を目途とし、臨床指導経験、臨床看護管理経験について留意する。そのためには、派遣受入希望調査表は中国科学技術委員会での手続き期間がかかることを考慮し、事務局の指定期日以内に提出できるように配慮する。

2) 隊員の活動状況と問題点・要望

・今後対応の必要な隊員について

個別面談で結論の出なかった隊員の対応について市橋調整員と協議した。隊員は看護部長との人間関係を理由に配属先変更を希望していた。看護部長は、2代目の隊員も初代隊員と同様に看護の実践を通して整体看護の普及に協力することを継続してほしいと期待しているが、本人は看護部に限らず院内でのセミナーや学習会の開催に活動の中心を置き、これまでその方向で活動してきたため、配属先との関係がうまくいかない様子であった。セミナーも終了し、今後は看護部長の望む活動になるが、先方の要望と隊員本人の希望する活動内容は大きく異なっている。結論として調整員が再度面談し配属先で活動する方向で指導する。極力配属先変更は行わない方向でしばらく経過をみることにした。

・専門雑誌購読に替わる情報入手の方法について

全体会議で要望の出ている活動に必要な参考書・雑誌等の事務所蔵書の充実、インターネットによる情報入手法など、時代にあった有効な方法を事務所としても検討課題とする。

II-4 中国巡回指導調査の総括・提言

パキスタン巡回指導を後ろに控えていたため5日間で3ヶ所を訪問し、11名の看護婦隊員全員と会議をもち、合間をぬって面談するというかなりハードなあわただしい訪問であったが、羽田、市橋両調整員の綿密な計画と準備によって大変効率的、効果的に訪問の目的を達成することができたと考える。

以下に調査の総括として、要請開拓、隊員派遣にあたって留意すべき点について述べる。

1) 看護教育協力型活動の方向性

中国の看護教育は「中国の看護」(資料10頁)に示すように中等専門学校、専科大学、医科大学看護学部の3つのカテゴリーで行われており、隊員はこのうち中等専門学校への協力を行っている。中等専門学校は中卒3年制であるが、国家衛生部の方針もあり、唐山衛生学校のようにまず中卒5年制、更に高卒3年制の中等看護専門学校への昇格を目指す学校が増えるなど移行期にある。昇格には整体看護概念に基づいた看護教育が必要であり、看護学校からの協力要請は年々増加している。こうした背景から、看護学校への協力は意義が大きいと考えられる。しかし、今後の要請開拓、派遣にあたっては以下の点について留意することが重要である。

(1) 要請開拓にあたっては、C/Pが看護職の教員であることを確認する。

中国の教育カリキュラムは現在も国家衛生部の示す医学モデルを基本とした教育指針によるカリキュラムである。具体的には、基礎看護学は看護教員が教授しているが、それ以外の成人・小児看護学等の系統看護学教育はほとんどが医師によって行われており、看護教員による看護教育はこれからという感が強い。唐山衛生学校のように小児科医師を隊員のC/Pとして、医師による整体看護教育を実践しようという試みもあるが、本来の教育体系の相違からくる限界、日本での研修実施の困難性など問題が多く、あくまでも一時的措置と考えられる。

(2) 看護学校とその実習病院である医療施設双方に隊員を派遣し、活動効果を高める。

看護学校において整体看護に基づいて行われた講義や演習は、臨床実習の体験を通して学生の理解が深まり患者中心の看護を体得できる。しかし、実習病院の指導体制はないに等しく、学生がマンパワーとして期待されている現状ではなかなか効果が期待できないということが隊員OGからも問題提起されてきた。実習病院に隊員を派遣し、学校側と連携をもって指導看護婦の育成や学習環境整備を行う活動を試みることの意義は大きい。隊員を派遣している看護学校の実習病院で実状を改善したいと考えている病院の活動が順調に進めば、中国看護婦隊員の新たな活動の展開が期待できる。

2) 病院看護協力型活動の方向性

中国における看護婦隊員の医療現場型(病院)活動は1986年に初代隊員が河北省人民医院で活動を開始して以来15年になる。その間、C/Pの不在、要請内容と実際の隊員活動に対する現場の期待にズレが大きい(医療機材に対する期待等)などの問題があるなかで紆余曲折の経過をたどり、基礎看護教育分野での協力を派遣の重点を移行しながらも、病院への派遣は継続されてきた。中国の看護は現在、整体看護の全国的普及が課題であり、臨床現場への看護過程や看護診断システムの導入を奨励している。近年の要請内容は、こうした日本の臨床看護ではすでに定着しているシステムの導入に隊員活動の効果を期待するものであり、今後も病院への派遣を継続することの意義は大きいと考えられる。派遣中の隊員に対する病院側の受入れはいずれの病院も好意的であり、私生活においても可能なかぎりの環境が整られてると思われた。派遣にあたっては、今後も中国事務所との協議の項に述べたように、要請開拓および派遣にあたっては、次の点に留意することが望ましい。

(1) 病院幹部の隊員要請に対する具体的な期待を確認する。

(2) C/Pの必要性の理解を促し可能なかぎりC/Pと面談する。

(3) 隊員の所属を看護部長直属とすることの効果について看護部長の理解を得る。

- (4) 2代目や後任の派遣要請の是非は、初代隊員の活動状況の病院側、隊員自身の評価をもとに客観的に行う。
- (5) 看護学校と連携し実習病院として指導体制の改善を希望する病院への派遣を優先する。
- (6) 選考にあたっては臨床経験5年以上を目途とし、臨床指導経験、臨床看護管理経験について留意する。
- (7) 派遣受入希望調査票は中国科学技術委員会での手続き期間がかかることを考慮し、事務局の指定期日内に提出できるように配慮する。

Ⅲ. パキスタン巡回指導（2000年11月21日～28日）

Ⅲ-1 活動現場の巡回指導調査結果

- 1) パキスタン医科学研究所小児病院(Pakistan Institute of Medical Science, Children hospital: PIMS)

Madam Mumtaz 小児病院看護部長

小野山直美 11年1次隊 看護婦

神谷ひろみ 12年特次隊（ソロモン諸島11年2次隊振替） 看護婦

(1) パキスタン医科学研究所（PIMS）小児病院の概要

パキスタン医科学研究所は総合病院、小児病院、MCHセンター、看護学校をもつ医科学研究所であり、過去にJICA看護教育プロジェクト技術協力、小児病院に対しては無償資金協力が行われ、現在もMCHセンターに母子保健プロジェクト技術協力が行われている。JOCVはこれまで看護婦、統計、医療機器隊員が活動しており、小野山隊員は2代目である。病院の規模は、15床のNICU、9床+隔離2床のPICU、外科病棟1（49床）、内科病棟2（44+43床）、特別病棟1（17床）からなる。診療の概要は1ヶ月あたり外来患者数約8,000人、手術件数約200、Xray件数約150、入院は常に満床に近い状況である。

(2) 病院の隊員に対する期待：モンターズ看護部長との面談

現在看護部には看護部長を補佐する副部長や教育婦長が専従していないため、院内教育は病棟婦長や主任が兼務している。小野山隊員も業務マニュアル作成や院内研修会の講師として協力しておりモンターズ部長は隊員活動を高く評価していた。後任の派遣は強く望むところであるが、部長の補佐ができるスーパーインテント（管理婦長）を希望していた。技術顧問の考えとしては、そうした人材はむしろシニアボランティアで要請したほうが人材を得やすい、JOCV隊員は主任あるいは婦長レベルが限界であり、要請をどのレベル出すかは現地事務所とよく協議するように提言した。

(3) 隊員の活動状況と技術指導

①小野山直美隊員

NICU（集中治療棟）、PICU（Post NICU）で各6ヶ月の活動を終え、現在外科病棟で活動中である。モンターズ看護部長の依頼により病棟の看護上の問題状況把握と改善の提言を行ってきたが、外科病棟の指導効果があまり期待できないため3ヶ月で切り上げ、内科病棟で1ヶ月状況把握・レポートの後はNICUにもどり、残る3ヶ月間は作成したNICU・PICUマニュアルの使用状況やトレーニング後のフォローアップを行う予定である。スタッフナースとしての配属であり婦長および複数のスタッフをC/Pとしているが、院内には日本で研修を受けた医師・看護婦が数人おり、小野山隊員の医療機器に関する知識・技術が買われ、看護婦の指導者として位置づけられている。看護部長の信頼を得て、OJT担当看護婦とともに院内スタッフのトレーニングの企画・実施に参加するなど看護のレベルアップの貢献している。活動の総括時期でもあり特に活動上の問題はないが、PIMS小児病院は日本の援助による医療機器が豊富であるだけに衛生材料や薬品等の消耗品の不足、使いまわしや未消毒使用が目立ち、提言すると患者に負担がかかる結果になる。こうした実態を看護部長に告げ口にならないように提言する方法を模索しており、物品定数管理表を作成することや必要物品の請求を看護部長経由で行う可能性について相談する方法等について話し合った。また、小児用医療機器マニュアル作成に必要な英文仕様書の入手希望があり、帰国後早急に送ることを約束した。

②神谷ひとみ隊員

ソロモン諸島の振替え派遣で、PICUでの活動を開始して1週間である。病棟のスタッフとして配属されているが看護アドバイザーとして位置づけられている。他のスタッフナースとの関係は、まだ言葉の問題で医師(英語)と婦長(日本研修経験者のため日本語)を介しての会話であるため指導レベルに達していないと感じておりやや焦っているようも見受けられたが、ソロモンでの経験もあり職場への適応はかなり早いのではないかと思われ、活動上の問題は特に感じられなかった。今後の活動は、物品の少ない中で清潔操作をどう定着させていくかが課題と考えており、日本での研修経験のある婦長をC/Pとして協力体制をとりながら焦らずに進めていくように助言した。

2) ラウルピンディー総合病院 リプロダクティブ・ヘルスサービスセンター (RHS)

Dr. Shabana Bari センター長
作本美由紀 12年1次隊 看護婦

(1) リプロダクティブ・ヘルスサービスセンター (RHS) の概要

RHSセンターは、人口省が管轄し、ラウルピンディー総合病院の敷地内にある保健医療サービスセンターである。センターの機能は、家族計画カウンセリング、避妊具・薬の提供、不妊手術適応のカウンセリングと不妊手術の実施である。不妊手術は女性7～10件/日、男性3件/日(男性のFWWが行う)程度であるが、車で1～1.5時間ほどのタキシラとマリ近くにあるサテライトへ巡回に出向いて手術を行う。職員構成は通常以下の4名である。

センター長医師1名(人口省での研修1～1.5年)、

TN 1名(Theatre Nurse手術看護婦:基礎教育・不妊手術実習等を病院で18ヶ月研修)

FWW 1名(Family Welfare Worker:避妊具挿入・避妊用注射実習等を病院で5～6ヶ月研修)

FWA 1名(Family Welfare Assistant:家族計画の基礎・カウンセリング等を病院で2～3ヶ月研修)

(2) センターの隊員に対する期待

センター長は初代の作本隊員の配属当初は研修生と思っていたようだが、現在は理解し始めている。いい活動をしているが、英語の専門用語特に手術器械に慣れていないので参考資料の提供をしてやってほしいと希望(作本隊員より依頼され持参したむね伝える)。配属後3ヶ月のため、後任への期待や要請計画等については時期尚早と考え話題にしなかったが、隊員との人間関係は問題ないようであった。

(3) 作本美由紀隊員の活動状況と技術指導

当初は、センター長をはじめ職員の隊員活動に対する理解が皆無であったため、かなり戸惑いがあったようである。作本隊員は主に手術室で不妊手術の介助を行っているが、幸いスタッフの業務姿勢が前向きであり、清潔操作等について作本隊員の確認を求めてくるなど良好な人間関係のなかで活動できていた。活動上の問題は、センター長からIUD(避妊具)の挿入と抜去をやるように云われていることと、手術のスクラブナース(直接介助)につくと創部の縫合をやらなければならない(本来は医師の業務であるが、TNにまかしている)ことである。

IUD挿入は研修に出なければ実施できないので、センター長には、JOCV活動の範囲を越えること、縫合についても医師業務であり隊員しか実施する者がいない状況ではないので医師が行ってほしいことの、2点について技術顧問からセンター長に申し入れた。

(4) ラワルピンディー総合病院整形外科手術棟隊員新規派遣先見学（資料12頁）

RHSと同じ敷地内に派遣要請の出ている病院整形外科手術棟があるため見学のため立寄った。要請に関わった医師が不在のため整形外科教授を表敬したが、組織が大きいためか本件の情報が伝わっておらず、後日事務所として正式訪問するむね伝えて辞した。手術室内までは見学できなかったが、待合室は患者の家族で喧騒としており、整形外科単科だけでなく外科手術室の様相が強く、中規模病院の稼働のよい手術部という印象であった。

3) パキスタン医科学研究所内(PIMS)リプロダクティブ・ヘルスサービスセンター(RHS)

Dr. Fakhra センター長

高見夏子 12年1次隊 看護婦

(1) RHSセンターの概要

当センターの機能も職員構成も作本隊員配属場所と同様である。しかし、日本の無償資金協力で建設されたPIMS内のMCHセンター（母子保健センター）の一席に間借りした形で診療室とオフィスの2部屋を使って業務を行い、不妊手術はMCHの手術室を借用して行っている。そのため、カウンセリングによって不妊手術が決定しても使用できる手術室がなく、すぐに対応できないケースもある。月間手術件数は約30件、平均1日1～2件である。

(2) センターの隊員に対する期待

センター長は赴任して間もないとのことで、隊員の存在がRHS専用の手術室を確保するためのきっかけ（機動力）にならないだろうかという思惑が感じられたが、高見隊員が手術室看護婦で専門職としての技量を備えていることは理解していた。

(3) 高見夏子隊員の活動状況と技術指導

活動を開始して4ヶ月になり、家族計画カウンセリングや不妊手術の援助をしている。本来の手術室業務が間借りという物理的な問題で順調でないことに加え、勤務経験が長く現状を良しとしているTN（手術看護婦）が高見隊員に耳を貸そうとする意志が全くないため対応に苦慮している。隊員だけでなく他のスタッフも人間関係の問題で入退職が多いが、センター長は静観しており、高見隊員は隊員の位置づけ、自分に対する期待が見えないなどの悩みが多く、本来業務に専念できていない様子がうかがえた。MCHセンター手術室の婦長やスタッフは協力的であり協働の可能性はあるが、隊員派遣の本来業務からははずれる。こうした状況から任地変更の方向で、急遽人口福祉省のDr.Chaudhryとも相談し変更先の候補にあがったRHSセンターも見学したが、将来的に母体病院に吸収される計画があったり、すでに13年度の隊員が配属予定であるなどで、滞在中に結論を出すにいたらなかった。高見隊員とは面談して実情について話し合い、現在のセンターで活動を続ける意志が全くないわけではないため、現在赴任後初めて人口福祉省に提出するレポートを作成中であることから、活動の課題という捉え方で現状と本人の活動計画等を盛り込んだレポートになるよう、内容について指導、助言した。レポートが省に届いた段階で、再度事務局とDr.ChaudhryDGとで、高見隊員の処遇については検討する予定である。

4) ラワルピンディー家族福祉センター (Falahi Marukaz Rehmanabad FWC)

Mrs. Razia Makhdoomi センター長

鈴木聖子 10年3次隊 保健婦

(1) FWセンターの概要

FWCはRHSセンターと同じく人口省の管轄であり、機能も家族計画カウンセリング、避妊具・薬の提供を行う点は同じであるが、不妊手術に関してはカウンセリングまでで適応者(男児がおり子ども数4～5人で避妊に夫婦で合意した者。手術に対し75Rpの奨励金を受けるしくみになっている。)に手術は行わず、RHSへ紹介している。FWCは人口3000人に1ヵ所設置され、現在ラワルピンディー地区に52ヵ所、パンジャブ州に約900ヵ所設置されている。職員の構成と業務は、センター長は医師ではなく人口省指定の18ヶ月間の研修を受けたFWWで診察と避妊注射・薬の投与を担当し、FWA男女2名のうち女性は家庭訪問で避妊指導と避妊薬の販売、男性は経理・統計・物品管理等を担当、helper 1名はFWWの助手、門番1名である。1日の来所者は15～30人程度である。避妊具は注射5Rp/1回、ピル1シート3Rp、コンドーム1Rp/2個であった。

(2) センターの隊員に対する期待

センター長は、鈴木隊員はトレーニングに来ていと云っており、改善提案やワークショップに理解や参加の意志はない。しかし、鈴木隊員が女性のFWA(21歳 高卒、人口省研修3ヶ月)をC/Pとして住民に対し健康教育のワークショップや家庭訪問を行うことについては否定しないという状況である。後任については希望しているが具体性はない。後任派遣は要請内容、隊員に対する期待やセンターの体制等の具体的な提示がないと派遣できないこと強調したが、理解した感触ではなかった。

(3) 鈴木聖子隊員の活動状況と技術指導

鈴木隊員センター長に期待できないと判断したので、家族計画事業を軌道に乗せるアプローチとともに、健康情報の場としてのセンターの活用を計画し、FWAに住民の健康教育に関する技術移転をしたいと考えている。現状は指導よりもワークショップなど住民の健康へのかかわりを主体とした活動になっているとのことであった。訪問時、住民からラマダンを前にして希望のあった「肥満ーラマダンに太らないための食べ方」についてワークショップが行なわれていた。体重確認、絵図による食物カロリーの比較、エクセサイズの実技などをとり入れ、10人程の婦人方の参加意欲をそそる楽しい企画で盛況であった。本人も述べているように進行は鈴木隊員が主体となっており、C/Pとの協働はまだ資料作成程度である。後任の是非については鈴木隊員も思案中であった。センター長の問題は人口省もある程度把握しているようであるが、鈴木隊員の健康教育という視点はFWCの機能の枠を広げることに繋がるので、活動効果や可能性について事務局や人口省とよく相談して結論を出すように助言した。

5) 社会福祉省アリプール村地方開発プロジェクト

Mr.Pervaiz、 Ms.Almas (責任者の Mr.Babar不在)

藤原利恵 12年特次隊 保健婦 (ソロモン諸島11年1次隊振替)

(1) アリプール村地方開発プロジェクトの概要

地方開発プロジェクトは、社会福祉省(資料13頁)の村落部住民の生活向上を目的とした事業であり、収入向上、公衆衛生の向上を目指している。アリプール村には10年3次隊村落開発普及員の猪俣修隊員がおり、現地の材料を用いた紙漉きの技術を導入し、収入向上だけでなく村の青年にもいい影響を与えている。公衆衛生分野では韓国(KYV)の理学療法士ボランティアが1名入っており、MCH内に健康器具を設置しているが、活動は栄養改善をめざして村内巡回が中心とのことである。

(2) センターの隊員に対する期待

JOCV保健医療分野では藤原隊員が初代であり、プロジェクト管轄下のMCHセンターを基点として村民の生活指導（衛生観念、疾病予防）等の地域保健、母子保健、さらに学校保健への協力を期待されている。しかし、責任者のババール氏は公衆衛生に関する専門職ではなく、当日も不在であったようにJOCV活動を自らの役割パワーの危機感に繋げている傾向があり、猪俣隊員が苦勞してきた経緯がある。この問題は本省もある程度把握しており最近は本人の姿勢にも変化がみられているようである。職員は、MCHセンターの責任者で藤原隊員のC/Pであるアルマスさんもババール氏の次席ペルバイ氏も隊員に好意的であった。

(3) 藤原利恵隊員の活動状況と技術指導

藤原隊員はソロモン諸島振替派遣で赴任後1週間であり、MCHの見学と活動計画模索中であった。C/Pが英語に堪能でないため意思疎通に苦慮していたが、技術顧問のヒンズー語を理解してくれたため、業務内容や今後の活動方向性についてある程度の見通しがついたようである。C/Pのアルマスさんは月～金曜日の午前中はMCHで母子外来と一般外来診療を行い、午後は村の巡回、土曜日は健康教育というスケジュールであるが、確実に実施しているかどうかは定かではない。藤原隊員は業務範囲が広いので活動の焦点をしぼるため、当分は村に入って村民の健康状態や子供の栄養状態を把握したいと考えており、アルマスさんに同行すること、巡回のために必要な血圧計の調達について調整員と相談することの調整を行った。

Ⅲ-2 看護職隊員全体会議

11月24日（木）14時～17時

出席者 小野山、神谷、高見、鈴木、藤原隊員（作本隊員は巡回診療のため欠席）

隊員それぞれの活動状況、問題点、課題等を述べてお互いの情報交換を図るとともに、技術顧問に対する要望を聴取した。共通の課題としては専門用語の英語能力を高める必要を感じており、特に手術機械やマニュアルの英文資料等の支援が必要であると感じた。また、人口省管轄下のRHSやFWCで活動する隊員は、活動上の共通の課題として、隊員活動について理解ができていないあるいは理解することを避けようとする現地スタッフとの人間関係の問題を抱えている。

Ⅲ-3 政府関係機関の要望等の確認および協議

1) 保健省看護アドバイザーとの協議

面談者 Mrs.Clara Pasha 看護アドバイザー

クララパーシャ看護アドバイザーは、元PIMS看護大学看護学部長（JICA看護教育プロジェクト技術協力実施校）であり、保健省看護アドバイザーとして看護行政に影響力の大きい人物である（資料14頁）。11月21日（火）は 看護教育プロ技フォローアップ調査団とともに表敬訪問し、複雑なパキスタンの看護教育制度（資料15頁）による3職種（Registered Nurse看護婦：高卒3年教育、Mid Wife助産婦：高卒1年教育、Lady's Health Visitors保健婦：高卒2年教育）と、卒後教育制度による専門看護婦に関する情報ならびに現状の看護問題について意見をうかがった。

パキスタンの看護行政上の問題は、クララパーシャ看護アドバイザーの現状分析によると、肺癌の発生率が高いことによるガン看護の専門看護婦、看護教員・臨床指導者不足、看護管理者不足、コミュニティー・ヘルス（地域看護）実践者の不足であり、これらに対する日本の人的・物的協力が大きい。わずか30分の面談であったため、11月22日（水）に再度時間をとっていただきJOCVに対する期待について意見をうかがった。パキスタンの保健婦とも云えるLHVは、現在District Hospitalの地域保健部門である保健センター、外来、家族計画センターで活動しているが、全国で3500人程度であり、この職種へのJOCVの協力を期待している。Lady's Health Worker(LHW)という職種もあるが、これは専門職ではなく、保健省主催のプライマリ・ヘルスケア（PHC）研修プログラムを3ヶ月間受けた保健ワーカーである。現在人口1000人対LHW1人の配置で地域保健活動をしているが、JOCVに対しLHWの人材育成への期待ももっている。保健省関係へのJOCVの協力は現在PIMSだけであり、要請開拓の余地と必要が十分あると感じた。

2) 人口省イスラマバード地域事務所との協議

(District Population Welfare office, Islamabad)

面談者 Mr.Jahanzeb Tahir DPW所長

ジャハンセーブ所長は実力者であり隊員活動に理解を示し好意的なリーダーの1人である。事務所直轄のFWCで活動しており現在療養婦国中の11年2次隊保健婦、滝沢美苗隊員の活動を手放して評価しており、同席したC/Pのアコブ氏（FWW）も同意していた。再赴任可能かどうか気にしており事前に滝沢隊員のその後の情報を入手しておかなかったことが悔やまれた。高見隊員の件について、任地変更した場合の配属先にどうかと思うRHSセンターがあると、同行し案内してくれた。センター長が休暇で留守であったが、職場環境もよさそうに期待できたが、先の理由で実現しなかった。今後派遣予定の岩切、田村両隊員の受入れ施設について確認した。所長は、FWCは各Districtに100ヵ所近くありイスラマバード、ラワルピンディーだけでなく今後ラホールやペシャワールに対しても協力を広げて欲しいと期待していた。

3) 人口省ラワルピンディー地域事務所との協議

(District Population Welfare office, Rawalpindi)

面談者 Mr.Ch Bashir Ahmed 所長

アハマド所長は温厚な人物で、イスラマバード地域と同様隊員活動には関心と好意を持っている。活動中の隊員評価は、鈴木隊員については、ワークショップが住民の興味を引き参加者も増えており成功しているのではないかと、作本隊員は、まだ日は浅いがいい仕事をしており期待していると両者ともに評価していた。鈴木隊員当人は、当初より所長と話す機会が減り関心が薄れたのではないかと心配していたが、所長は、隊員が慣れてきたので尊重して口を出さないように配慮しているようであり、相談にはいつでも応じたいという姿勢であった。隊員の活用方針としては、マリ、コルダ、グジャラハーン地方には車で巡回診療に出てサテライトセンターでの診療活動も行っているため、サテライトを持つFWCでやる気のあるセンターへの派遣を増やしていきたいという計画を持っている。

4) 人口省 (Ministry of Population Welfare) との協議

面談者 Dr. Naushaba Chaudhry 総局長

チョードリ局長は、人口省 (資料16頁) では権威のある人物で隊員活動に対する理解と期待も大きい。隊員の配属先の印象を報告するとともに問題状況に多少触れてみたが、かなり具体的に現場の状況を把握しており、RHSやFWCのセンター長の問題等をあらためてお願いするまでもなく、人の問題は時間がかかり、簡単ではないが留意しているとのことであった。今後の隊員活用方針については、規模の拡大としては、カラチ、ムルタンが考えられるが、ムルタンが治安も良く受入れ環境を整えられそうだと考えている。配属については、トレーニングセンターでFWCの研修をしている間に人物を選び、その人物のFWCへ隊員を入れていくことも考えていると云っており、センター長の資質によって隊員活動の成果が左右されることを承知した発言が印象的であった。

5) パキスタン看護協議会(Pakisutan Nursing Federation)、ファティマ記念病院 訪問

面談者 Dr.Chulam Sabir Aziz理事長、
Nisab Akhtar看護部長・看護協会専務理事

(1) パキスタン看護協議会 (PNF)

PHFの事業、行政への影響力、卒後教育の実態等を知るため、看護教育プロ技フォローアップ調査団とともに訪問する予定であったが、調査団の保健省との協議予定が変更したため、単独で訪問した。パキスタンは1947年にインドから分離し、その当時の看護婦数は55人だけであった。1950年から看護教育を開始し、1970年にPNFを創立している。PNFはまだ独立した施設は持っておらず、専務理事の所属施設が昨年から開校したナーシングカレッジ (専門看護婦養成コース) 内に事務局を置いている。事業内容は、資料に示すとおりであるが (資料17頁)、会員は約5,000名 (全看護婦の35%)、卒後教育は年に数回の集合研修 (テーマは院内感染等) 程度で、専門看護婦養成はファティマ記念病院のような私立の養成コースに頼っている。

(2) ファティマ記念病院小児ICU病棟

PNFの事務局があり専務理事が看護部長のファティマ記念病院は、小児科診療に力をいれている。昨年从小児科専門看護婦養成コースのカレッジも開校している。このコースの教員は管理者レベルの病院職員があたり、学生は病院で勤務しながら通学している。近い将来小児ICUコースの開講を予定しており、臨床看護のアドバイザーとしてJOCVの協力を要請できないかとの打診があった。要請に関するシステムを説明し、要望についてはパキスタン事務所に伝えることを約束した。小児ICU、PICUを見学したが、医療機器は旧式ではあるが程度整っており、PIMS小児病院レベルの診療および看護を行っているのではないかと思われた。

III-4 パキスタン事務所との協議

1) 隊員の活動状況と問題点・要望の確認

以下について話し合い確認した。

- (1) パキスタン医科学研究所(PIMS)の活動については、現状急を要する問題は特にないが今後の協力活動方針の確認が必要である。

- (2) 人口省管轄下の隊員については、省の幹部はJOCV活動に関して総じて好意的であり、隊員活動の支援を惜しまないという熱意が感じられるが、現場での活動上、具体的かつ隊員にとって深刻な問題がほとんどの施設にみられる。具体的には下記のとおり。
- ・配属施設責任者の隊員活動への理解については、省のリーダーと調整をとり、状況によっては任地変更や後任派遣の是非について検討しなければならないと考える。特に高見隊員の今後については急を要するのではないか。
 - ・根本的な問題であるが、人口省管轄のTN、FWW、FWA等の職種は、国の保健医療重点政策遂行上必要とされ、短期間の訓練によって教育された保健ワーカーである。そのため、隊員が協働する際に、専門的見地からの意見の食い違い、あるいは専門職でない者を上司としてその役割パワーを尊重していかなければならないというジレンマなど、現実にかんがりのストレスになっている。保健福祉省関連の活動は開始したばかりであるが、同様の問題を予測できる状況がすでにあるように感じられる。
- 人口省、社会福祉省ともに隊員要請に対するニーズが高い現実を無視はできないが、派遣時のポジション（隊員の位置づけ）を工夫するなど検討の余地があるように思われる（例えばRHSセンター配属の看護婦は省の直属とし、看護アドバイザーの位置づけで常時は現場で活動する等）。
- (3) 看護職隊員全体の問題ではあるが、英語による活動の助けになる医学英語、英文医療機器リスト、英文レポートの書き方などの資料整備、パキスタンの医療事情などについて、事務所書庫の充実と隊員指導が必要である。
- (4) 派遣受入希望調査表の配属先は、管轄省庁だけでなく実際に活動する現場を決定して申請する。要請内容は、可能な限り所属長に会って配属先が隊員に期待することについて具体的に確認し明記する。隊員の位置づけも明確にする。

2) 要請開拓・協力活動方針等の協議

(1) 保健省関連の協力活動方針について

現在パキスタン医科学研究所附属(PIMS)小児病院を中心に病院活動型隊員を派遣しているが、要請内容から少なくとも経験5年以上のリーダーを派遣する必要がある。看護部長は自分の補佐のできる看護管理者を臨んでいるが、これをJOCV隊員で考えるならば、技術移転可能な教育部長のような人材が看護部に常駐するような体制が整わないと技術移転は無理であろう。そうした体制が取れない場合は、シニア海外ボランティアのほうが適任と考えるか、人材を得にくい現状ではある。

要請拡大の方向性としては、ラホールファティマ記念病院小児ICUの調査を開始するなど活動地域を拡大する方向と、活動分野を拡大する方向とが考えられる。病院型活動だけでなく、MWやLHVの活動分野である保健省管轄のコミュニティーヘルス（PHCの実践）、家族計画・リプロダクティブヘルス関連施設の派遣可能性についても調査していく必要があるのではないかと考える。むしろ保健省関連施設ではJOCV看護職隊員と似た教育背景を持った職種が活動しており、そうした職種との協働は効果的である。技術顧問としては今後の活動方針にぜひ加えていただきたいと考える。

(2) 人口省関連の協力活動方針について

FWC、RHSセンターへの協力ニーズが高く、活動効果も期待できるが、隊員の抱える問題やストレスを極力減らす方策を検討していく必要がある。その1つとして派遣受入希望調査表の配属先を省止まりでなく、配属施設まで確定して申請するために現場調査を行う。これは現場の理解をとりつけるきっかけとしても有効ではないかと考える。

(3) 社会福祉省の協力活動方針について

緒についたばかりであり、藤原隊員の事例を通して方向性を検討していく。

III-5 パキスタン巡回指導調査の総括・提言

パキスタンにおける看護職隊員（看護婦・助産婦・保健婦）の要請については、派遣開始当初より専門的見地からの把握がしにくい状況があり、事務局や現地事務所に手数をおかけしていた。特に人口省からの家族計画・リプロダクティブヘルス関連の要請に関しては、パキスタンの保健医療システムでの位置づけとマンパワーの職種が複雑であり理解しにくかった。今回の訪問によって現地の状況や理解の行き違っていた事項が解決するとともに、今後の要請開拓の方向性について現地事務所と共通理解ができ予想以上の成果があった。このことは川本調整員による政府関係機関との協議日程調整などの綿密な事前準備、また十分な話し合いの時間をとっていただいたことによる成果と考える。以下に調査の総括として今後の要請開拓および隊員派遣にあたって留意すべき点について述べる。

1) 要請開拓の方向性

パキスタンの保健医療サービスの現状は、政策の重点をコミュニティーヘルス（PHCの実践）、家族計画・リプロダクティブヘルスに置き、保健省、人口省、社会福祉省の3省が重なり合って事業を行い、マンパワーもそれぞれ異なった職種が錯綜して関わって行なわれている。こうした状況によって起きる問題はパキスタン政府も感じており、統合の動きがあることが政府関係機関との協議のなかで把握できた。しかし、こうした問題は単純ではなく実現可能性も定かではない。また、パキスタンにおける看護専門職の需給上の問題は、クララパーシャ看護アドバイザーも指摘しているとおおり看護教員、臨床指導・がん看護等の専門看護婦など指導者レベルの人材不足と、コミュニティーヘルス分野の看護マンパワー不足である。こうした状況下で日本の協力に対する期待が大きいのが、JICAの人的協力としてはJOCV、シニア海外ボランティア、JICA専門家がどのように分担し協力していくかが1つの課題であろう。今回の活動現場の巡回調査、政府関係機関およびパキスタン事務所との協議を総合すると、JOCV活動としては、臨床およびにコミュニティーヘルス分野の人材育成への協力が効果的であると考えられ、要請開拓の方向性は以下のように要約できる。

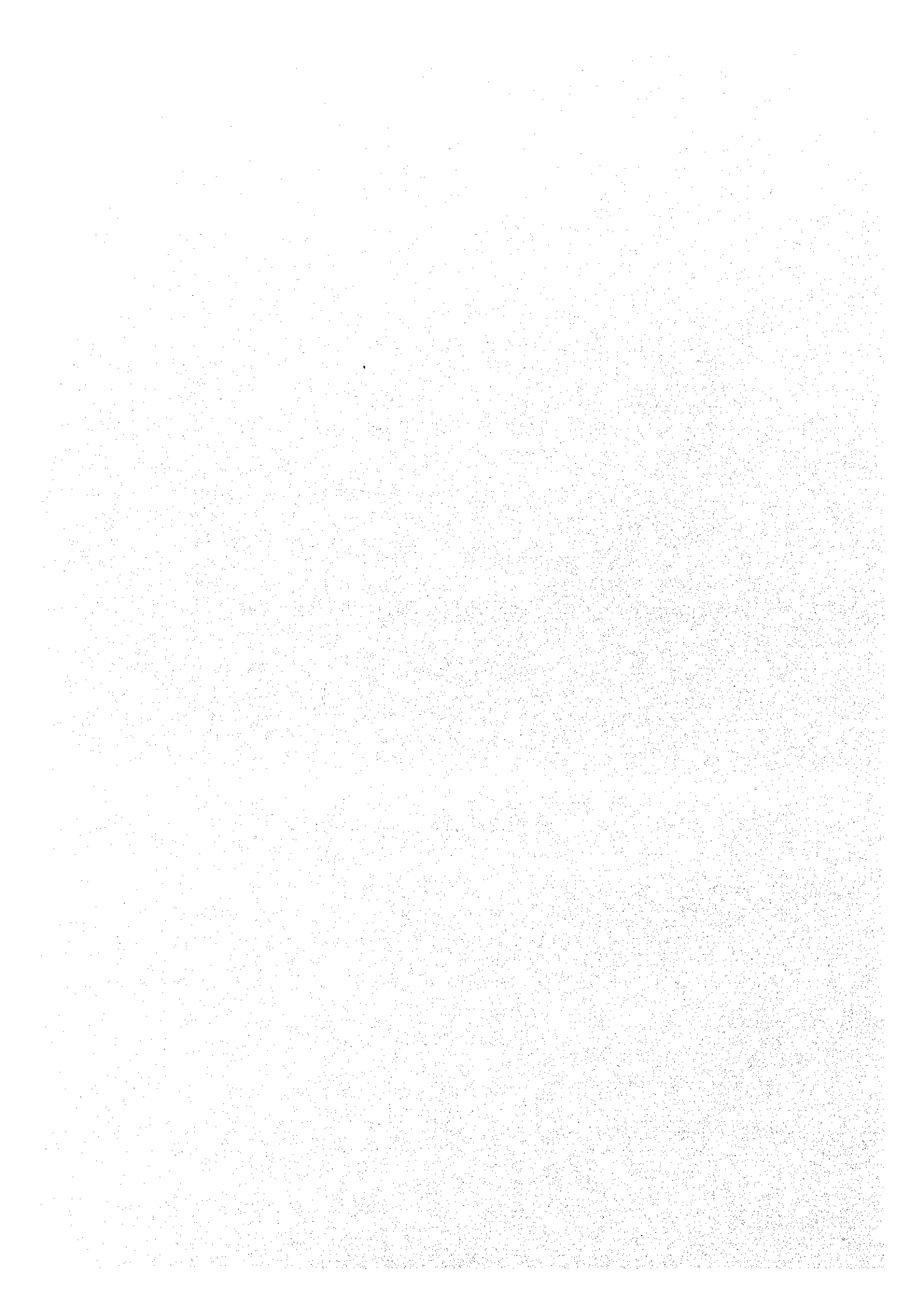
- (1) JOCV活動としては、現在の病院活動型の要請開拓はイスラマバードだけでなく派遣希望のあるラホールなど、活動地域の拡大が可能であろう。また併せて、保健省のPHCの基づくコミュニティーヘルス関連分野への協力可能性について調査する必要がある。
- (2) 人口省の家族計画・リプロダクティブヘルス関連の要請に関しては、活動効果の期待できる現場について人口省とよく協議するとともに、現地調査に十分留意する必要がある。それによって派遣受人希望調査表は配属先を確定した申請が可能になる。

2) 隊員派遣上の留意点

- (1) 病院活動型の看護婦隊員は、専門領域の臨床経験と併せて、学生・スタッフの指導経験やリーダー業務経験者が望ましい。
- (2) 病院、RHSセンター配属の場合は英語の語学力に留意し、専門用語や英作文の学習を奨励する必要がある。また、RHSセンターの場合は手術室と病棟看護の両領域の経験者が望ましい。
- (3) 病院活動以外の配属は地域看護の補完研修を必ず受講させる。また、要請内容によっては環境（水質）に関する補完研修受講についても留意する。

【参考資料】

在中国青年海外協力隊配置図（2000.11.1）	1
在パキスタン国協力隊派配属先別派遣状況（2000.10.1）	2
(中国)	
1. 看護婦活動会議資料	3
2. 看護婦活動会議資料議事録	5
3. 派遣受入希望調査表（河北省 化市人民病院）	9
4. 中国の看護	10
(パキスタン)	
5. 派遣受入希望調査表（ラワルピンディー総合病院）	12
6. 社会福祉省組織図	13
7. 保健省組織図	14
8. パキスタン看護教育制度	15
9. 人口省組織図	16
10. Report of the Secretary General/Pakistan Nursing Federation	17



在中国青年海外協力隊配置図

国際協力事業団 中華人民共和国

2000年11月01日現在 一般隊員

71名 (男子20名 女子51名)

(派遣中)

●電話利用

▲携帯電話利用

石家庄 (Shi Jia Zhuang)

小川 優美 (00/07) 作業療法士 河北省人民病院腫瘍中心●
 銀川 (Yin Chuan)

張海 徹也 (99/04) 日本語教師 草夏大学●
 武汉 (Wu Han)

● 種田 富子 (00/07) 看護婦 湖北医科大学付属第二病院●
 黄石 (Huang Shi)

大和 みゆき (00/07) 日本語教師 湖北師範学院●
 黄冈 (Huang Gang)

佐藤安希子 (99/07) 日本語教師 貴州師範学院●
 ● 浅川 佳子 (00/04) 看護婦 貴州衛生学校●

重庆 (Chong Qing)

● 瀧野 妙雄 (99/12) 看護婦 重慶医科大学付属第二病院●
 长沙 (Chang Sha)

● 龜田 英明 (97/12) 自動車整備 湖南省公安厅湘潭進口汽車修理場●
 周村 幸代 (99/07) 日本語教師 中南大学●

● 河原 謙 (99/12) 看護婦 国家衛生部呼吸器病外科研究中心●
 王球 真広 (99/12) 水泳 長沙市体育館●

白石 久美 (00/07) 日本語教師 湖南大学●
 安原 英伸 (00/07) 日本語教師 長沙市第七中学校●

张家界 (Zhang Jia Jie)

● 岡本 香実 (99/12) 日本語教師 武陵大学●
 福島 一成 (00/04) 映像 武陵大学●

● 株洲 (Zhu Zhou)
 菊池 美子 (99/07) 幼稚園教師 株洲市南人児童遊園中心●

湘潭 (Xiang Tan)

大井 健 (00/04) 野球 湘潭市岳塘区職業局●
 池本 周子 (00/07) 日本語教師 湘潭大学●

芷江 (Zhi Jiang)

芝原 金 (00/07) 花巻 湖南省芷江民族職業中等専科学校●

攀枝花 (Pan Zhi Hua)

富田 政行 (99/12) 野球 攀枝花市体育運動委員会▲

贵阳 (Gui Yang)

西野 望 (00/07) 日本語教師 貴州大学●
 遵义 (Zun Yi)

● 熊野 直幸 (98/12) 看護婦 遵義衛生学校●
 桂林 (Gui Lin)

● 西宮 肇 (99/07) 日本語教師 桂林市旅遊高等専科学校●
 林 陽子 (99/07) 幼稚園教師 桂林市七星幼稚園●

大塚 智子 (99/12) デザイン 桂林市旅遊高等専科学校●
 ● 阪本 真紀 (00/04) 看護婦 桂林衛生学校●

● 寺本 将也 (00/07) 果樹 桂林市賓館●
 二宮 伸子 (00/07) 幼稚園教師 桂林第十五中学校●

百色 (Bai Se)

古田 高也 (00/04) 獣医師 広西百色職業学校●
 柳州 (Liu Zhou)

小川 明美 (00/07) 理学療法士 柳州市人民病院●
 濱田 貴子 (00/07) 幼稚園教師 柳州市直屬機關幼稚園●

甘肅 (Gan Qi Ka)

● 黒岩 幸子 (00/07) 日本語教師 内蒙古甘肅第二高級中学校●
 呼和浩特 (Hu He Hao Te)

● 若田 一風 (98/07) 日本語教師 内蒙古省引進外国語留宿中心●
 太原 (Tai Yuan)

● 坂本 佳子 (99/04) 日本語教師 太原市外国語学校●

哈尔滨 (Ha Er Bin)

● 阿部 喜子 (99/04) 日本語教師 ハルビン理工大学●
 戸崎美穂利 (99/07) 日本語教師 黒龍江大学●
 佐竹 千草 (00/07) 日本語教師 ハルビン理工大学●

长春 (Chang Chun)

● 田賀 高美子 (99/04) 日本語教師 白求恩医科大学●
 東 和枝 (99/07) 日本語教師 中国社日留学生予備校●
 濱野なな枝 (00/07) 日本語教師 長春外国語学校●

延辺 (Yan Bian)

● 濱本 幸子 (99/07) 日本語教師 延辺大学人文学院●
 高野 涼子 (00/07) 日本語教師 延辺龍井高校●
 原 黒代 (00/07) 日本語教師 延辺龍井第三中学校●

沈阳 (Shen Yang)

山口 智子 (99/12) 日本語教師 中国医科大学●
 西川 元真 (99/12) 日本語教師 遼寧中医学堂●
 渡部真由美 (00/07) 日本語教師 沈陽市外国語学校●

辽阳 (Liao Yang)

● 柳原 悦子 (98/12) 日本語教師 遼寧大学外国語学院●

營口 (Ying Kou)

● 市橋 文子 (00/04) 婦人子供 營口市中日高級中学校●
 若杉 英治 (00/07) 日本語教師 營口市長興中学校●
 大連 (Da Lian)

青島 (Qing Dao)

● 青田 幸恵 (00/07) 日本語教師 大連民族学院●
 武川 幸恵 (97/07) 日本語教師 青島海洋大学●
 唐山 (Tang Shan)

唐山 (Tang Shan)

● 關原ゆかり (99/12) 看護婦 唐山衛生学校●
 沂源 (Yi Yuan Xian)

沂源 (Yi Yuan Xian)

● 中島 元寿 (98/12) 診療放射線 沂源県人民病院●

南京 (Nan Jing)

坂野 智雄 (99/07) 日本語教師 東亜大学●

鎮江 (Zhen Jiang)

● 岡田由起子 (98/12) 看護婦 鎮江医学院付属病院●
 多野 直 (99/07) 幼稚園教師 鎮江市水産専科幼稚園●

南昌 (Nan Chang)

● 鈴木 真子 (99/12) 日本語教師 江西省旅遊学校●

荆门 (Jing Men)

● 村上 真一 (99/07) 野球 湖北省荆门市體育局門中心●

开封 (Kai Feng)

● 久保田直樹 (97/12) レスリング 開封市体育運動学校●▲
 若淵 健隆 (98/12) 歯科技工士 開封市衛生学校●
 ● 戸部芳江 (99/04) 看護婦 開封市衛生学校●

泉州 (Xiang Zhou Xian)

● 鈴木 健 (99/12) 音楽 泉州城隍中学校●

寧波 (Nan Ning)

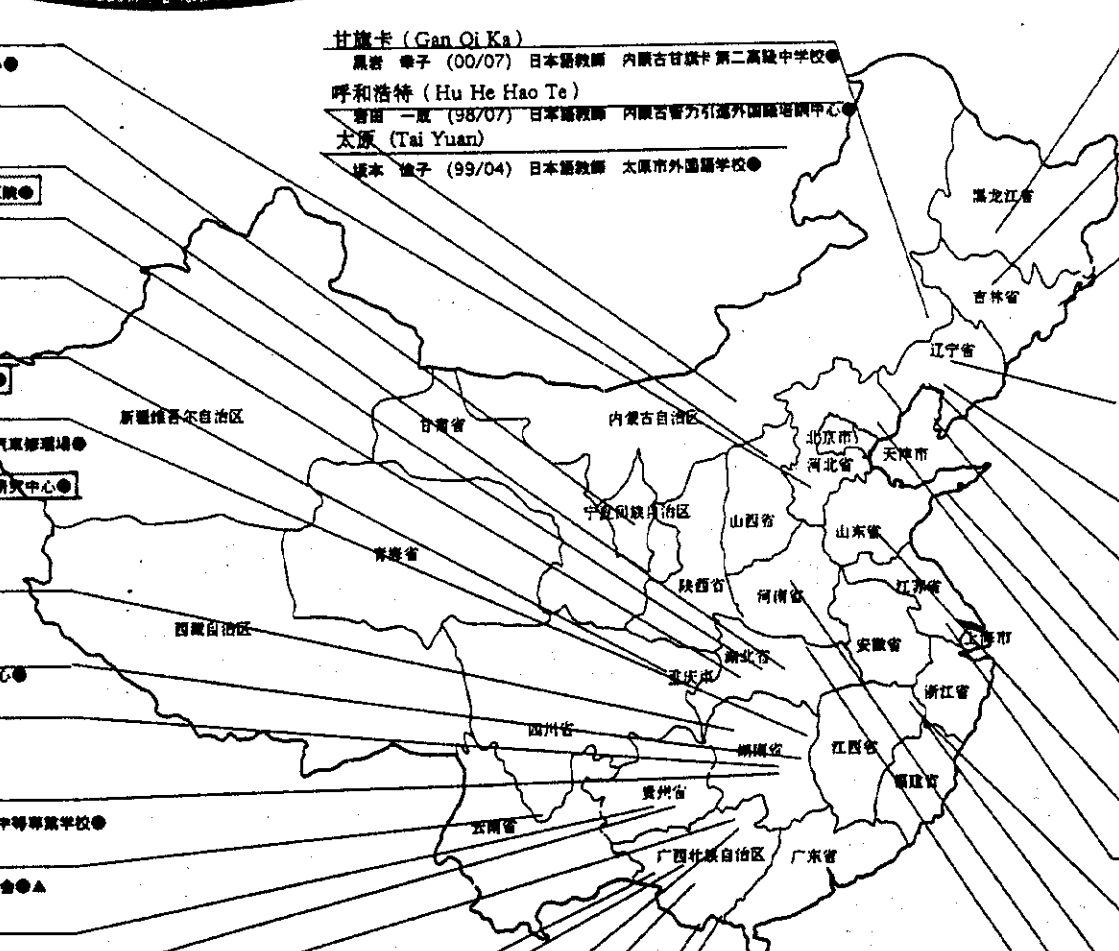
● 若出 可雄 (99/04) 幼稚園教師 広西壮族自治区第二幼稚園●
 天野 高孝 (00/04) 野球 広西職業学校●

防城港 (Fang Cheng Gang)

● 下山 智博 (00/04) 婦人子供 広西壮族自治区設計研究所●
 辻 舞美 (00/04) 婦人子供 南寧職業技術学院●
 高野 健 (00/07) 日本語教師 広西大学●

北海 (Bei Hai)

● 八木真穂子 (00/04) 看護婦 防城港市人民病院●
 ● 池野裕見子 (99/12) 看護婦 北海市蒼海衛生学校附属病院●



2000年11月1日現在

パキスタン国協力隊
配属先別派遣状況表

配属省庁	職種	人数	氏名
社会福祉省 (8名)	地方開発プロジェクト	村落開発普及員	1 10/3 猪又 修
		保健婦	1 12/特 藤原 利恵
	アマーケット-△視覚障害児教育センタ	家政	1 10/3 松本 智子
	社会福祉訓練センター	美容師	1 10/2 小倉 智枝
	身体障害者訓練センター	竹工芸	1 10/1 奥本 志央
	バーブッド協会	小学校教諭	1 11/3 乾 恵里子
	セントジョセフ・ホスピス	理学療法士	1 11/2 磯部 由美
ウミデヌール	理学療法士	1 12/1 有光 朋恵	
人口省 (4名)	家族福祉センター	保健婦	2 10/3 鈴木 聖子
			11/2 滝沢 美苗 ← 既来者
	リプロダクティブ・ヘルス サービス・センター	看護婦	2 12/1 高見 夏子 12/1 作本美由紀
保健省 (3名)	パキスタン医科学研究所、小児病院	看護婦	2 11/1 小野山直美 12/特 神谷ひろみ
	パキスタン医科学研究所、小児病院	統計	1 12/1 小林 一成
内務省 (1名)	パンジャブ州警察	S.E.	1 11/1 友田 昌秀
地方開発局 (2名)	ラウルピンディ市	自動車整備	1 11/3 千葉 伸明
		村落開発普及員	1 11/3 楢原 覚

- ◎派遣中隊員数： 18 名 (内女性13名)
- ◎累積派遣隊員数： 44 名 (内女性28名)

看護婦活動会議資料

<中国看護婦隊員の現状>

- ・ 中国における看護・医療レベルの向上に伴い、各隊員に求められる活動内容もより高度なものになってきている。(基礎看護技術・レベルは高い。)
- ・ 配属先の要望に応えられれば問題がないが、実際はその課題が大きく、活動が円滑に進まない。
- ・ 中国の看護制度は細部にわたってまで、とりきめられており、一隊員、一病院、学校のみでは改善できないものが多い。(例：看護記録用紙、看護教育カリキュラム等)
- ・ 心理、衛生面への看護向上には、習慣や受けてきた教育の相違、各個人の人間性や看護観にかかわるところが大きく、アプローチしづらい。
- ・ 配属先自体に向上心、主体性、問題意識がなく、現状態に満足してしまっている時にカウンターパートも設置されていないことがあり、協力者が得られない。
- ・ 隊員を要請した上層部はJOCVの意味を理解し、協力的であるが、隊員が実際に働く現場の人々はJOCVに対する理解がない。

中国看護婦隊員：病院型 6名、学校型 5名

<病院>

- ・ 基礎看護技術レベルは高い。
- ・ 日常生活援助は家人が実施。
- ・ 患者の全体像を把握していない。
(情報不足)
- ・ 精神・心理的看護の欠如
- ・ 看護の質・評価方法が誤っている。
- ・ 患者健康、隊員指導の不足。
(個別性・具体性)
- ・ 感染に対する意識が薄い。予防対策。
- ・ 機能別看護
- ・ 看護診断やS.O.A.P方式を導入しつつある。
(記録用紙は制限されている。)
- ・ 看護婦数が少ない。(夜勤は1名)

<学校>

- ・ 看護技術に重点がおかれている。
- ・ 技術の根拠づけが弱い。
- ・ 患者を想定したうえでの実習がされていない。
- ・ 授業形態
- ・ 視覚に訴える教材不足
- ・ 臨床実習病院と学校との連携がない。
- ・ 臨床実習では勤務に組み込まれる。
- ・ 基礎看護学と各論看護学が独立している。
- ・ 看護教員の看護過程、心理的看護に関する知識不足。

<要請内容>

<病院>

- ・ 専門知識、技術の指導、先端技術の紹介
- ・ 勉強会の開催
- ・ 日本語会話
- ・ 患者の心理面、患者中心のケアー強化
(整体看護)
- ・ 婦長補作としての病棟管理

3人

<学校>

- ・ 日本の看護紹介・・・翻訳、看護学生に
対する講義。
- ・ 臨床看護学の講義方法の改革
学校教育改革の協力
- ・ 講義・実習のオブザーバー

中国看護婦活動会議 議事録

日時：2000年11月18日 15時～18時

場所：JICA中国事務所第3会議室

出席者：戸塚技術顧問，市橋 C.C.

10-2 高橋結華隊員，馬淵由起子隊員

10-3 戸野部芳江隊員

11-2 磯野裕見子隊員，照屋中かり隊員

星野抄織隊員，斎藤稔隊員

11-3 茂川佳子隊員，八木尚美子隊員

吉本美紀隊員

12-1 増田宮子隊員

司会：馬淵隊員

書記：斎藤隊員

1. 中国看護婦の現状報告 → 別添資料参照

要請背景調査報告…戸野部隊員より。

・2000年10月12～13日 江蘇省無錫の看護学校へ新規要請調査に行かれた件について報告。

学校側の要請理由は「整体看護を学びたい、看護過程を展開できるようにしたい」であったが、具体的な計画は挙がっていない。しかし求めている内容は高度である。

2. グループ活動提案に至った経過報告 … 高橋隊員より。

・提案理由：隊員個人の活動では限界があり、新しい活動形態を見出す必要性が生じている

・具体的方法：日本で取り入れている看護過程の事例紹介、展開方法を、学校(衛校)や病院に赴いてプレゼンテーションする。その後、意見交換会を行い、中方の反応を知り、以後の活動の材料としていく。

目標：“中国の看護婦が自分で問題解決できる能力”を向上させる。

活動の利点：①各臨床現場、看護学校に日本が実施している看護過程についての情報を提供できる。

② JOCV看護婦隊員を中方にアピールできる。

活動をすすめるにあたり、この課題：

① 対象者の選定はどうするか。

② 活動の評価方法

③ 守園側の反応をどう生かすか

④ JOLV としてのせまい活動範囲ではなく、プロジェクトとして立案し、

継続性を持たせた方がよいのでは？ (北京事務所よりアドバイス)

3. 戸塚技術顧問からの助言:

① 隊員各人が個々に活動しているだけではいけない。グループでの活動に貢献。→ ラオス区標隊員のグループ活動について紹介あり。

② 中国協力隊活動10周年のクロスロード特集について一読のすすめ。

③ 中国看護婦隊員には選考時点で高いレベルを要求している。活動はマンパワーより指導型を期待している。TSE/TFSから中国は体制が確固としているため、ボトムに隊員を入れても意味をたせられないため。そのため、隊員は病院派遣の場合には看護部と近い位置にいたるべきである。

④ 臨床で看護学生に指導していく必要がある、又 実習に協力していく必要もある。

⑤ 整体看護の考え方を持つ人を増やさなければならぬ。

⑥ 文化の考え方の相違は変えなければならないため、真向から転りこんでもだめである。その上で整体看護をどう築いていくか、何ができるかを探る。

⑦ 形からではあるが、プライマリーナーシングをとり入れるという単体で行っているのでは？に協力していく。→ 指導者と現場で働くスタッフにその意識があるかどうか知る。決して中の方やり方を否定しない。プライドを保ちたい、という中の方の思いを考慮すると、隊員の意見の正当性がわかっていても変化に反応しないというメンツに配慮し、相手が自身で気持ちを受け入れる時間、きっかけを持つ。→ 最終的に結果が同じであればOKとする。

⑧ 問題意識を持っている中国看護婦は存在する。そのやり取り相手は情報を提供可能な有効である。

⑨ 日本の看護事例を入念し、中国に合うようアレンジするのは良い方法である。

⑩ グループ活動について: 「看護過程とは何か」という議論は非常に重要。

標準看護計画をどこに入れるか? 新しい書式を持ちこむより、今中国の臨床で使っているものとどう連動させるか、十分に使えるようマニュアルを作成(補足という形でも可)するのも効果的である。そのためにもまず現在中国で使っている記録用紙がどういったものかを十分に分析する。このように問題点を洗

い失てから補足という形で作成したり、莫く整体看護に近づくことを決める。
標準看護計画はワンポイントにしづらいという落とし穴があるが、これは型のない所
では最初は無効である。

既成のビデオ、事例集をどんどん活用していく。

評価については、総括し、二つめに日中看護学会等対外的に発表しつづける
とよい。これは中国人スタッフの勉強にもなる。

〈例〉日中の看護の相違を分析し、考察する。その時点で結果は出なくても
よい。次回以降に続ける。

- ⑪ 日中看護学会について：4月に募集要綱が発表される。日本語で日本へ送る
方がよい。その回のテーマに沿わなくてもOK。友好的、看護の交流という
視点で書く。A43枚で発表内容がわかるように書く。聴講のみの場合、
カウンターパート同席 2名 2名 費用は公費負担可能。中国人スタッフとの
研究をすすめる際はトップの承認を得ることが大切 → メリットを説明

〈例〉病院の級等評価の材料となる。

日本の看護協会に入会しておく。

- ⑫ 基礎実習のない看護カリキュラムには、その必要性を提案する。特に中国
他の看護学校ではできている、という説明なら相手も受け入れやすい。
- ⑬ 看護婦隊員が日本語を教えることのコンセンサスを確立する必要がある。
CP研修も交流の手段としてなら許容範囲。
- ⑭ CPが医師であるのは問題。
- ⑮ 教字のデータは日本看護協会のホームページに出ているので活用を。
「国民衛生の動向」も使える。
- ⑯ 技術月刊誌廃止に伴う情報不足に対するケア必要 → 事務所へ
検討要請。〈例〉事務所へ月刊誌をとり、ホームページを見られるように手配。
- ⑰ 新規要請背景調査については、マニュアルが事務所にあるので一読の可なり。
- ⑱ 隊員自身 + 医療用語(中大)の話し方マニュアル、録音カセット、翻訳等を
可なり。(分担して)。言葉の壁は中国で看護教育しにくい原因の1つ
である。配属先には社任直後の講義要請は不可能であることと事務所

から十分に説明する必要がある。単に日本の教科書の暗写を要求して(子)供に
~~持たせ~~ それを 隊員レベルでは不可能である。配属先が何を求めている
のか十分に確認する必要がある。

- ① 教育用ビデオが必ずある場合、隊員支援経費を使うことが可能。
- ② 意識調査を実施する場合は 文化的バックグラウンドを十分に考慮して
なければならぬ。→ 「良い・悪い」 に つまみづかい等。
既にデータとして存在するのを活用する等、方法を考える。
(中国でアンケートをした場合は 国家の許可を取らなければならぬ)
- ③ 同一施設に複数隊員が活動しているケースでは、同一問題について共同の
学習会を開催する等の例がみられる。
- ④ 活動内容が 教育、看護管理にたつかわる場合、今後は 派遣前に 補充研修
を取り入れる可能性がある。
- ⑤ ICV の中で活動している隊員に対して 活動の幅を広げる必要は ないか、
検討していく。
- ⑥ 新規隊員の経験年数は 5年以上。(募集要綱に 3年以上とあり、事実上
5年以上しか採用していない)

以上

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年11月29日
調査者名：羽田 一三男

要請番号 (013 - 00 - 1 - 32)

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
中国	(日本語) 看護婦(士) (職種コード 511)	●新規 ○交替	1人	13年1次 ☑絶対
	(現地公用語) 护士	代目		
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) 河北省科学技術庁 (現地公用語) 河北省科学技术厅			
	2) 勤務先名 (日本語) 遵化市人民医院 (現地公用語) 遵化市人民医院			
	3) 勤務先住所 河北省遵化市 主要都市 (北京) から 150 Km 交通手段 (バス) で 3時間			
	4) 事業内容及び予算 二級甲の総合病院。ベット数500床、11病区、16科で構成されている。医療従事者505人、看護婦225人、看護婦の内訳は主任2名、主管看護婦30名、正看護婦66名、准看護97名、補助30名 短大卒の看護婦は53名、中卒卒は117名			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 国家衛生部が勧める整体化看護を取り入れているが、その展開が遅れている。病院としてはモデル病棟として内科1病棟 (老人病棟：一般内科)、一般外科、神経内科病棟で看護記録を用いて看護過程を展開し、整体化看護を病院全体に浸透させたいと考えている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) 看護婦 (現地公用語) 护士			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 同病院は他の病院と同様の問題として、整体化看護についての学習者が少なく、その展開方法が分からないことや、国内外の看護の情報が少ないことから改善に苦慮している。隊員には病棟として比較的忙しくない老人病棟でスタッフと共に働き、コミュニケーションの方法や看護過程の展開についての指導に期待している。また、同病院は唐山市衛生学校の実習生を受け入れており、その実習生に対して学習した整体化看護を実践する臨床指導に対しても期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと) 隊員は内科1病棟で活動する。病棟には個室および3~6人部屋。ナースコールは有るが患者の名前が小さくて見にくい。(写真参照) 看護カルテと医療用カルテは別になっている (別添資料参照)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢) 内科看護婦長 1名 主管看護婦 3名		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 10人中5人は短大卒	
7) 訓練すべき言語 (中国語) 語				
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) なし				
条件	学歴、経験、資格、性別 看護婦(士)・実務経験5年 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 () 乾期 月~ 月 雨期 月~ 月) ・気温 (-11-32℃位) 任地の人口 (7万 人) ・日用品：価格 <input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い、品質 <input type="checkbox"/> 良い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪い) 物資 <input type="checkbox"/> 豊富 <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 欠乏			

中国の看護

1. 看護教育

中等専門学校、専科大学、医科大学看護学部の3つのカテゴリーで行なわれている。教育機関は全部で536か所（1993年）これらの機関は全て政府が正式に批准したもので、政府の指示に従い統一の生徒募集を行なっている。

1) 中等看護専門学校

全国で501か所。受験資格は中学卒業で、履修年限は3～4年。卒業生はICNで定義する7アストレベルに相当する。高校卒業生を募集する少数の中等看護専門学校もあるが、履修年限は2年半である。毎年、3～4万人の卒業生を送り出している。

2) 看護専科大学

以下の3種類がある。

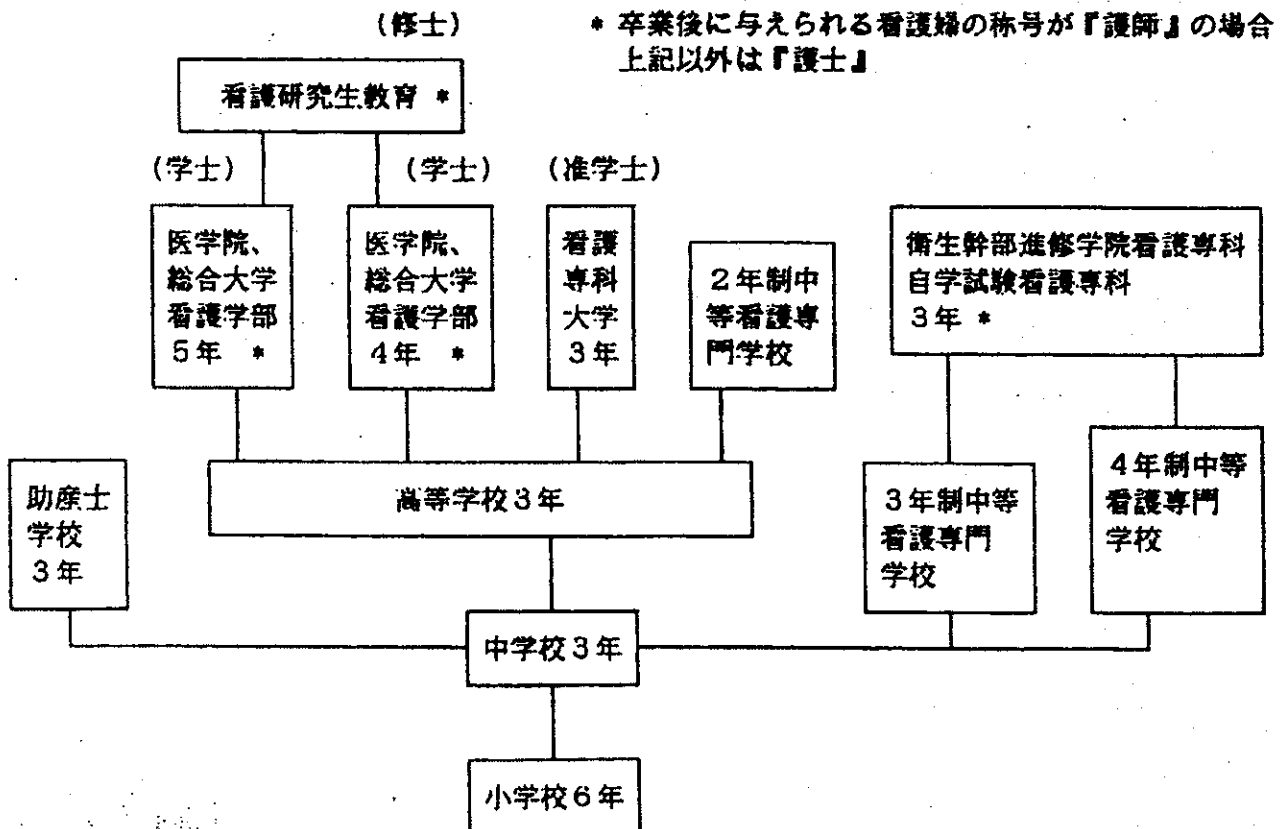
①看護専科大学

23か所あり、受験資格は高校卒業。履修年限は3年である。修了者には米国の准学士相当の卒業証書が授与される。

夜間大学の専修コースは、臨床経験3年以上で全国統一入学試験の合格者を対象とし、履修年限は3年である。主に、病院で働きながら勤務外の時間を利用して通学する。卒業試験合格者には専科大学の卒業証書が授与される。1991年末現在、全国でこのコースを設けている高等医学院及び医科大学は31か所である。

②衛生幹部進修学院

おおよそ各省、自治区、直轄市ごとに1か所ある。履修年限は2～3年。入学資格は中等看護専門学校卒業後、若干年の臨床経験を有し、全国統一入学試験に合格した者。修了者には看護専科大学の卒業証書が授与される。1991年末現在、33か所。



③ 自学試験教育

看護専門高等教育を独習し、全課目試験と審査に合格した者に看護専科大学卒業証書を授与するもので、16省で既に実施された。中等看護専門学校を卒業し臨床経験3年以上の看護婦が対象。定期的に課目試験を受け、成績は点数累算方式で決める。

3) 看護大学教育

現在、看護学部を設けている医学院及び大学は12か所である。入学資格は高校卒業で履修年限は4～5年。卒業すると学士の学位が授与される。

今のところ、研究生教育を実施している医学院は1か所であり、卒業後は看護修士の学位が授与される。1990年から成績優秀な学生を米国の修士課程に派遣しており、既に学位を取得して帰国した者もいる。

2. 看護法規

1993年 4月20日 衛生部（日本の厚生省相当）『看護婦管理法』公布

1994年 1月 1日 『看護婦管理法』施行

- ・看護婦の就業資格希望者は、衛生部の統一試験（国家試験）を受け、看護婦免許を取得しなければならない。免許を取得したものは看護業務に従事する登録を申請することができる。
- ・登録の有効期限は2年間。継続登録は、有効期限60日以内に行なう。
- ・登録を怠り5年以上経過した者は、省、自治区、直轄市衛生行政部の規定に基づき、臨床実践を3か月以内行ない、登録に関する証明書を提出することにより再登録される。等

3. 看護人員

看護婦数：105.6万人（人口千人当り0.91人。医師は1.58人）

病床数における看護婦比率

総合病院	1床：0.6～0.7人
500床以上の病院	1床：0.4人
300床以上の病院	1床：0.3人
小児科、精神内科、外科、ICU、CCU	1床：0.4人以上
産婦人科、耳鼻咽喉科	1床：0.4人以下

4. 中国の行政機構と医療機関

行政区	医療機関	医療業務
1級行政区 (省23、自治区5、直轄市3)	1級行政区立の総合医院、専門医院	省内の各医院の指導、医療従事者の養成、研修研究、予防活動、巡回医療
専区 (数県が集まったもの)		
2級行政区	2級行政区立の市・県人民病院、専門医院	市・県内の各医院の指導を行う他は1級行政区立と同様の任務
3級行政区 都市部：各街道（町） 農村部：郷	地段医院、専門医院 各街道衛生院 郷衛生院	治療、環境衛生条件の改善運動、衛生員の養成 薬草の採集・栽培、漢方薬の製造、家族計画の指導等
村	衛生站 保健站	疾病の予防、衛生状態の改善、治療、薬草の栽培と使用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年11月13日

調査者名：川本 晃子

要請番号 (043 - 00 - 1 - 10)

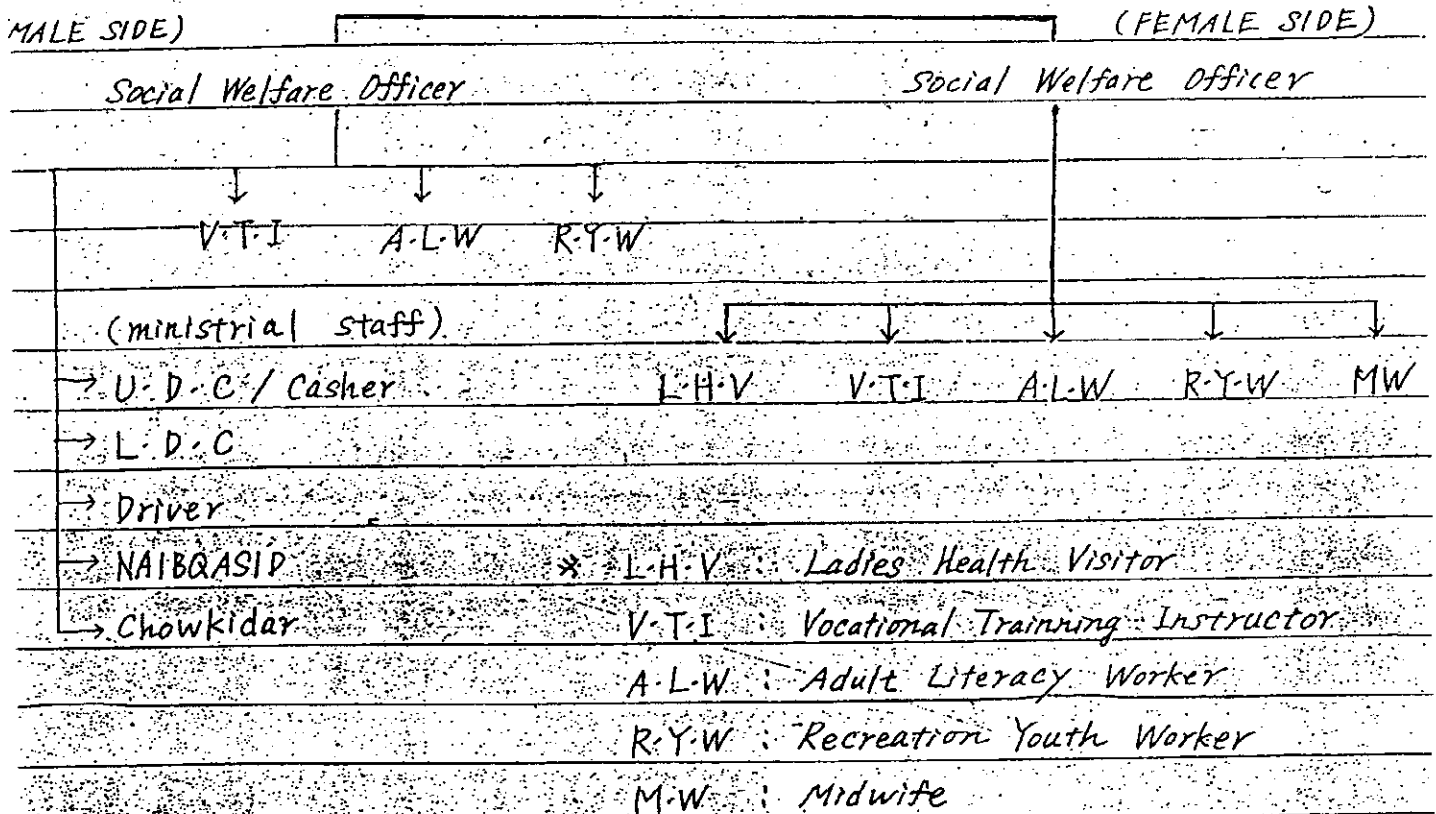
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
パキスタン	(日本語) 看護婦(士) (職種コード 511)	●新規 ○交替 代目	1人	13年1次 <input checked="" type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Nurse			
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) 保健省 (現地公用語) Ministry of Health			
	2) 勤務先名 (日本語) ラウルピンディ総合病院 (現地公用語) Rawalpindi General Hospital			
	3) 勤務先住所 ラウルピンディ 主要都市 (イスラマバード) から 20 Km 交通手段 (バス) で 0.5時間			
	4) 事業内容及び予算 ラウルピンディ市及びその周辺地域を対象とする総合病院である。ベッド数合計は618床、診療科19、で医師350人を擁する。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 整形外科部門の手術室における看護技術にばらつきがあるため隊員の看護業務実践を通して看護技術、環境整備の向上をはかるため要請された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) 看護婦 (現地公用語) Staff Nurse			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 -整形外科部門の手術室に勤務し看護業務実践を通じての業務改善や看護の質の向上、スタッフ指導を行う。 -当国において看護婦は看護技術の向上に対してさほど積極性がないので看護技術の改善をはかるには他の看護婦を率いていくリーダーシップと医師と連携して技術向上をはかるなど積極性ならびに忍耐が必要である。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと) -手術機器全般 (モニター、吸引器、呼吸器等)、整形外科用手術器具全般 (オートスコピーセット、カッターセット、ドリル、レプロスコピーセットを含む)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢) 整形外科看護婦、医師 平均看護経験年数4年 平均年齢25歳		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 整形外科手術室看護婦 平均看護経験年数4年 平均年齢25歳	
7) 訓練すべき言語 (ウルドウ) 語				
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) なし				
条件	学歴、経験、資格、性別 手術室勤務経験3年 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (亜熱帯) 乾期 10月～6月 雨期 7月～9月・気温 (3-48℃位) 任地の人口 (1.4百万人) ・日用品：価格 <input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い、品質 <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い 物資 <input type="checkbox"/> 豊富 <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 欠乏			

(2) 配属先の概要

① 配属機関名: Ministry of Women Development
 Social Welfare and Special Education
 (女性開発・社会福祉・特別教育省)

② 配属先の組織と規模: Rural Community Development Project
 (地域開発プロジェクト)

ORGANOGRAM OF R-C-D Project ALIPUR IBD

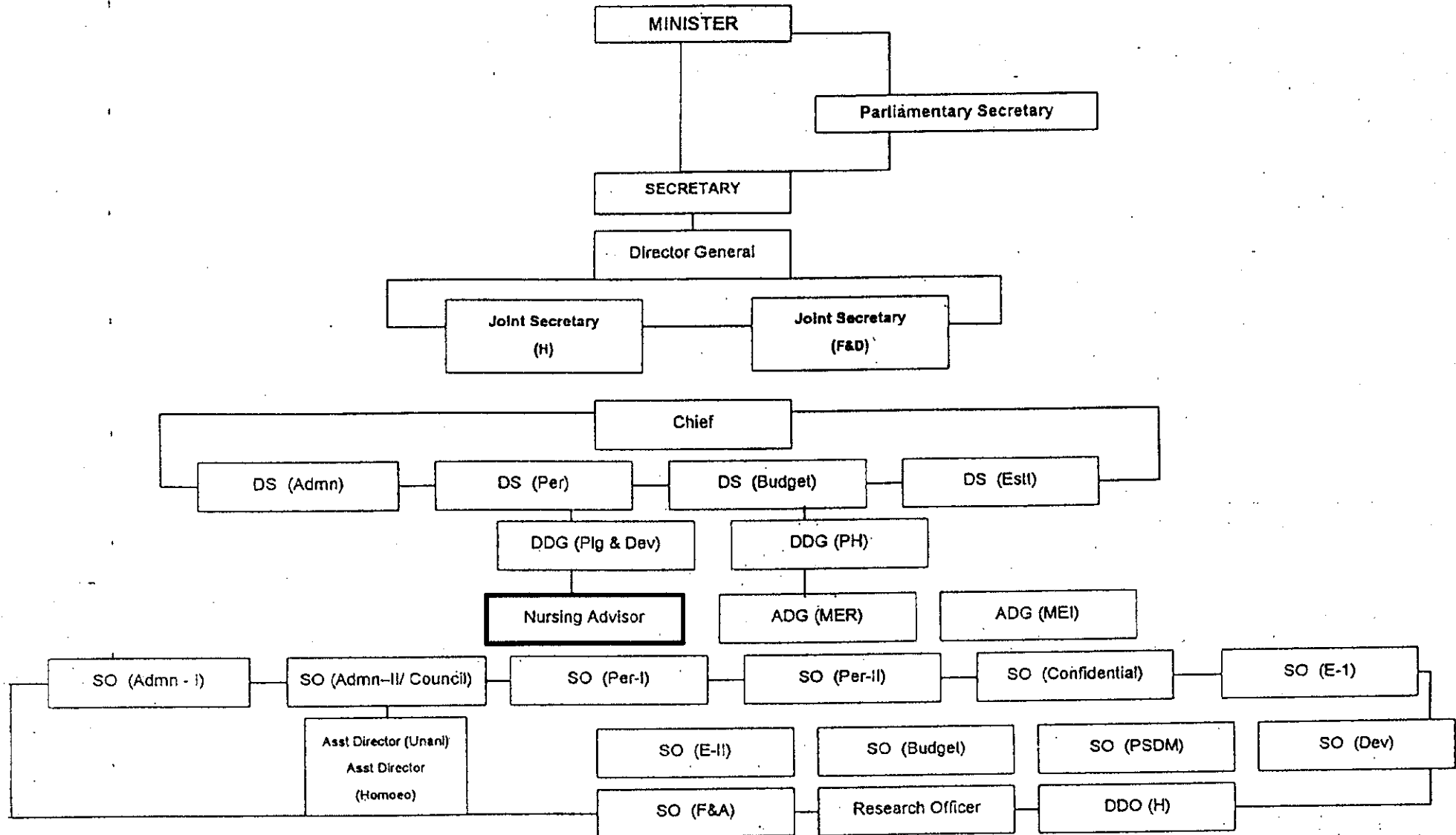


③ 外国の援助について

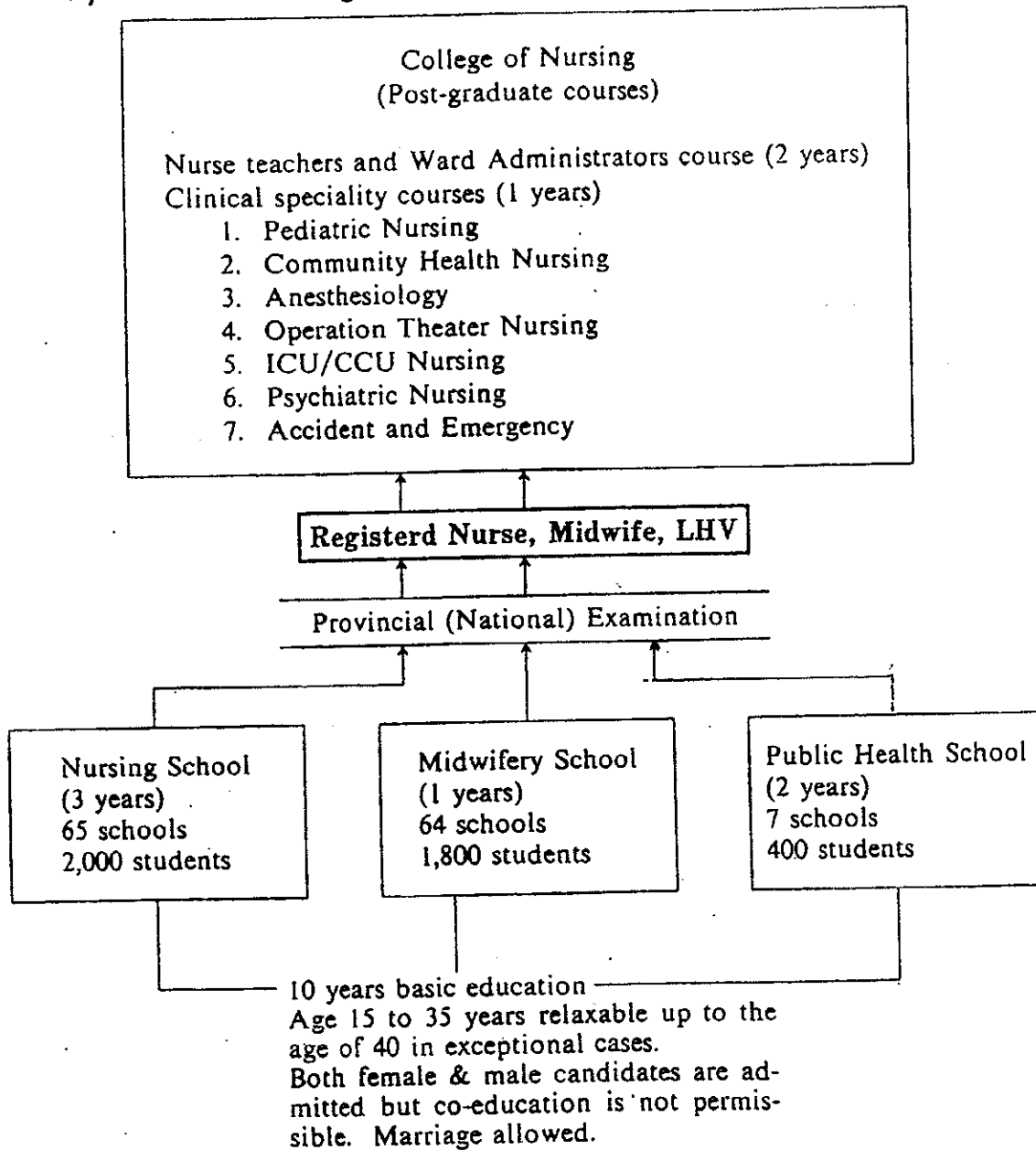
昨年未だ UNICEF のプロジェクト「ECCP - Early Child Care Project」がアケル村をはじめ、周りの3つの村に入ってきている。現在は調査段階である。また、韓国からのボランティア団体 - KOICA のメンバー1人が、個人的な活動としてアケル村に入ってきている。

**MINISTRY OF HEALTH
(HEALTH DIVISION)
Block 'C', Pak Secretariat, Islamabad**

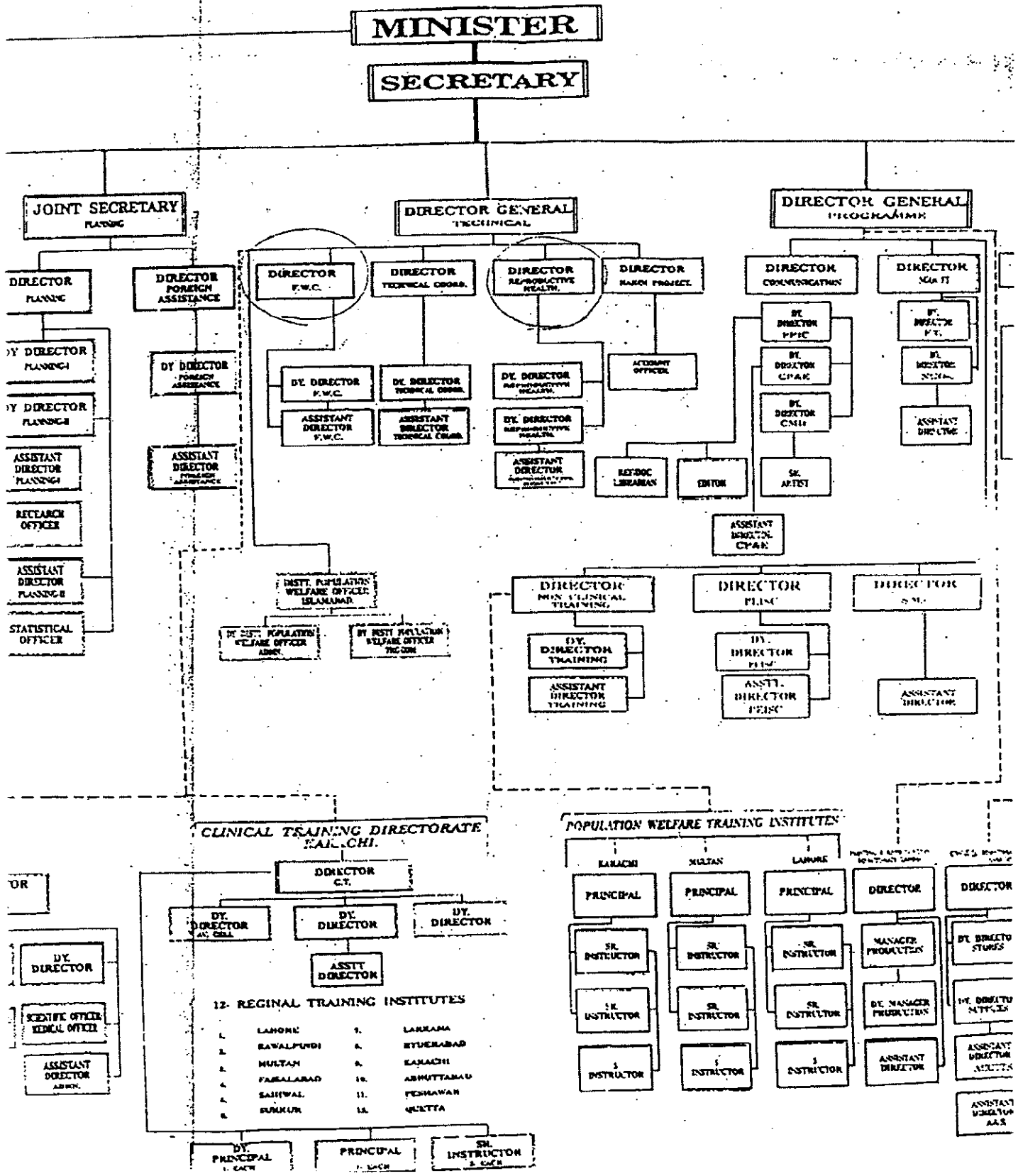
Health
Division - 1



System of nursing education



MINISTRY OF POPULATION WELFARE



**REPORT OF THE SECRETARY GENERAL/PNF ON THE
VISIT OF JAPANIES DELEGATION (JICA) ON 25-11-2000**

PAKISTAN NURSES FEDERATION

1. INTRODUCTION

Pakistan Nurses Federation (P.N.F.) is an independent non-governmental professional organization of Nursing in Pakistan.

The P.N.F. was registered on July 6, 1972 by the Assistant Registrar, under Societies Act 1860, as a successor to the Trained Nurses Association of Pakistan, (TNAP), which was founded and duly registered in 1949.

2. AIMS & OBJECTIVES.

- To work for the welfare and betterment of Nurses, Midwives and Health Visitors in Pakistan.
- To pursue and enter into negotiation with concerned government regarding matters pertaining to the welfare of Nurses.
- To advance ethical and professional standards ^{among the} nurses.
- To bring professional knowledge and skills to the ~~among~~ Service and care of the sick.
- To improve nursing practice through in-service education.
- To publish a journal providing update information in nursing.
- To endeavor to furnish legal aid to members, within the financial means of the P.N.F. when needed by them for the protection of their professional rights.

3. MISSION.

The Pakistan nurses Federation (PNF) is committed to meet the professional and recognition needs of Nurses, Lady Health Visitors and Midwives. These needs are met through processes of intervention and lobbying designed to stem injustices which have been identified and to maintain the professional integrity of those affected. The ultimate purpose of PNF is to develop on environment in which Nurses, L.H.Vs and Midwives can function effectively to provide quality health care for the people of Pakistan.

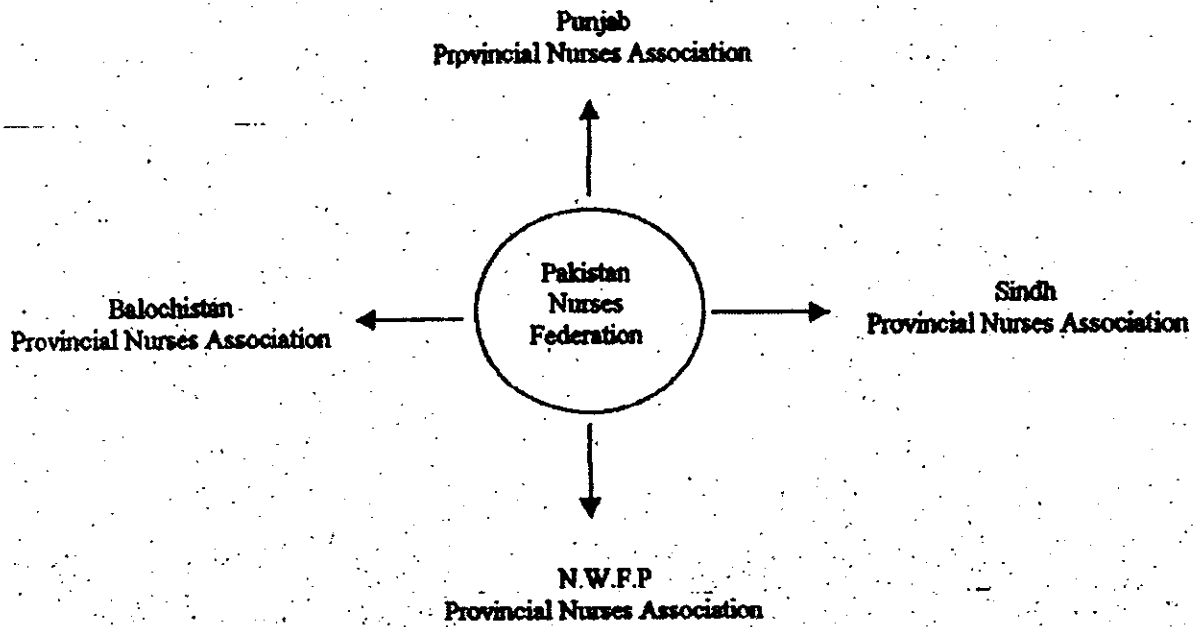
4. STRUCTURE & ORGANIZATION

• **STRUCTURE**

The Pakistan Nurses Federation is the Federation of the Provincial Nurses Associations, Punjab, Sindh, N.W.F.P. & Balochistan which are members of the Pakistan Nurses Federation.

The Azad Jammu & Kashmir Nursing Association is also member Association of the Pakistan Nurses Federation (Kindly also see the chart) Anxx. "A" & "B".)

Structure and Organization



Azad Jammu and Kashmir Nursing Association is also member of Association of Pakistan Nurses Federation.

ORGANIZATION

Executive Board of the Pakistan Nurses Federation



Governing Body of the Pakistan Nurses Federation



Provincial Nurses Association



Branch Nurses Association

Executive Board of the Pakistan Nurses Federation

- President
- 1st Vice President
- 2nd Vice President
- Secretary General
- Treasurer
- Editor Professional Magazine
- P.N.F Representative on Pakistan Nursing Council
- Chairpersons of Standing Committees
- EX-Officio Members of Pakistan Nurses Federation Executive Board
 1. Senior Nursing Officers of each province.
 2. Nursing Advisor of Ministry of Health.
 3. Registrar, Pakistan Nursing Council.

5 PRESENT ACTIVITIES OF P.N.F.

- Awareness about Pakistan Nurses Federation has been given to the Nursing Staff
- Membership of P.N.F. has been increased.
- The payment of the arrears of Annual Membership subscription for the years 1988 to 1991 was paid to the International Council of Nurses "Geneva".
- The Pakistan Nurses Federation was also admitted as member of the Commonwealth Nurses Federation in the year 1992.
- Regular meetings of Executive Board of Pakistan Nurses Federation are held.
- Meeting of the Governing Body of Pakistan Nurses Federation is held every year.
- Student Nurses Conferences have been started.
- Teacher Nurses Conference has also been started.
- Raise image and status of Nursing
- Recognition of Nursing as profession.
- Individual work.
- Accountability
- Advocacy
- Professionalism
- visionary leadership
- Flexibility
- Collaboration
- Positive image of Nursing.
- viable and cohesive entity
- Competent, holistic and cost-effective quality care at primary secondary and territory levels to individuals, families and communities.
- To promote the economic and general welfare of nursing professionals
- Well-defined career structure, will enhance job satisfaction and commitment.
- To develop, implement, monitor and evaluate the practice of nursing in the interest of the public trust.
- Actively participate in health policy, planning, formulation and implementation.
- To provide appropriate working conditions.
- Commitment to the profession and job satisfaction.
- Effective use of information technology.
- Degree as entry to practice for Nurses and L.H.Vs.

6. LINKAGE AND NET -WORKING WITH STAKEHOLDERS.

- Increase linkages and networks.
- enhanced nursing image
- empowerment
- Resources (Technical & Financial)

7. WHAT HAS P.N.F DONE FOR PROMOTION OF WELFARE ACTIVITIES OF NURSES

- With the efforts of PNF following posts in higher grades in the Nursing Cadre were sanctioned by the Government.

i) Director General Nursing	(BS-20)
ii) Chief Nursing Superintendents	(BS-20)
iii) Principals Colleges of Nursing	(BS-20)
iv) Dy: Director Nursing	(BS-19)
v) Dy: Chief Nursing Superintendents.	(BS-19)
vi) Nursing Superintendents & Asstt. Director Nursing	(BS-18)

• NURSES OF ARMED FORCES.

The Nurses working in the Armed Forces were not permitted to join any Professional Body of Nurses in Pakistan. Pakistan Nurses Federation successfully obtained permission for nurses serving in the Armed Forces to join Pakistan Nurses Federation as a regular member.

* INCREASE IN SEATS FOR NURSES

The Pakistan Nurses Federation repeatedly demanded and negotiated with the Government for increase in seats of nurses in hospitals in accordance with the criteria laid down by the Pakistan Nursing Council. Tangible progress in this respect has been achieved. Although seats have been increased but still have not been allocated according to the sanctioned criteria due to financial constraints.

• NURSING EDUCATION

Quality curriculum, revision, affiliation, provision of qualified nurses.

College of Nursing have been established in each Province to provide Post Basic education to nurses.

Pakistan Nurses Federation is laying maximum emphasis on proper nursing education in the Schools and Colleges. The Federation is striving that students after completion of 4 years course be awarded B.Sc. (Nursing) degree through examination to be concerned University. The PNF is also trying for providing facilities in Universities in Pakistan for under taking Master in Nursing M.Sc (Nursing).

- The Pakistan Nurses Federation has always stood in the way against any step against the interest of nurses. It will not out of place to narrate two glaring examples in which PNF effectively protected the interest of nursing community.

POST OF NURSING ADVISOR

- a) The Post of Nursing Advisor, Ministry of Health, Islamabad from its very creation has been occupied by a Senior Nurse, unfortunately a Doctor was posted as Nursing Advisor in the year 1991. The President/PNF & Secretary General/PNF alongwith Miss Constance Holleran, Executive Director, International Council of Nurses (I.C.N.) waited on the Minister & Secretary, Ministry of Health, Government of Pakistan, Islamabad to place the concern of nurses. The case was successfully pleaded and decision was revised restoring the post to nurses.

POWERS OF D.G.N. PUNJAB.

- b) The Director General Nursing, Punjab, was given the status and powers of Head of the attached department but unfortunately these powers were withdrawn on 17-3-1994 and Director General Nursing was placed under Director General Health, Punjab. The Pakistan Nurses Federation took a strong stand and approached Minister of Health, Punjab & Government of Pakistan. The matter was also brought to the notice of the President of Pakistan & Prime Minister of Pakistan. The efforts were Crowned with success and Director General Nursing Punjab was accorded its independent status.

*Coordination
is important*

- LAND FOR HOUSING SCHEME FOR THE NURSES OF N.W.F.P PROVINCE.

The Provincial Nurses Association (NWFP) got land from the Provincial Government (NWFP) for Housing Scheme to be distributed among its members on easy installments.

- * INCREASED IN THE MESS ALLOWANCE OF NURSING OFFICERS OF PUNJAB.

With the efforts of the Provincial Nurses Association, Punjab, Mess allowance of Nursing officers (Punjab) has been increased from Rs. 300/- to Rs. 500/- per month.

8. ANY OTHER SUBJECT RELATING TO NURSING PROFESSION.

FUTURE VISIONING OF P.N.F.

- * To unite nursing world wide.
- To advance professional development
- To influence Health Policy.
- Strong Leadership

- Office and infrastructure of Pakistan Nurses Federation. Plan has already been submitted to the DWHP (Programme)
- Research
- Continuing Professional Education
- Exploring possibilities of new scholarship for nurses.
- Networking with NGOs
- Survey of all public and private agencies/ institutions and community to know about nursing workforce.
- Every nurse must be a member of Pakistan Nurses Federation (all Nursing Officers/ Leaders must taken personal interest for the same)
- Distance learning (where they are working)

WORKSHOPS

- Curriculum development/ Revision of Curriculum.
 - Teaching methodology
 - Standard of education and practice research.
 - Hospital management
 - NIPA courses for four months for Nursing Officers (BS 19 & 20)
 - NIPA short courses for Nursing Officers (BS 16 - 18)
 - Method of clinical competency and clinical evaluation
 - Foreign scholarship
 - Sponsors for participation in ICN Quadrennial Congress
 - Group of Senior Nurses visit to foreign nurses (Exchange Programme)
 - B.Sc. "N"
- She was the participants.*

PUBLICATIONS

- PAKISTAN NURSING AND HEALTH REVIEW
- NEWS LETTERS
- VOICE OF NURSES IN PAKISTAN
- ARTICLE IN NEWSPAPERS

9. TOTAL NO. OF MEMBERS OF PAKISTAN NURSES FEDERATION

i)	Life Members	1315	}
ii)	Full Members	2107	
iii)	Associate Members	1801	
	<i>Student members.</i>		

10. CONCLUSION

Five decades have passed in the struggle to rebuild every thing from scratch at the time of independence. I can say with the sense of pride that nurses have come a long way to have achieved some status and recognition which passed denied earlier, but still a lot requires to be done.

In the words of Florence Nightingale the founder of Nursing Profession "Profession, like nations, can only flourish by an individual sense of corporate responsibility". The Pakistan Nurses Federation provide a corporate identity for nurses so that they can control and direct their affairs. Associations also provides a forum for relationing with the government, other organizations and public at large. The essence of affective operation of federation/ Associations of profession also depends on corporation, collaboration and collective ethics to gain their future state of profession.

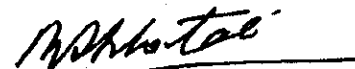
For effective functioning of Pakistan Nurses Federation importance of committed and zealous membership cannot be overlooked. To wish for hundred percent (100%) enrollment and committed work from all nurses may too much, but let us work to achieve target of 50% dedicated members to make significant progress and to fill the gap between the availability and desired goals.

Enlightened and strong leadership for decision making regarding the profession and effective communication and information system between the members associations are also pertinent and essential elements for achieving desirable performance levels.

While acknowledging the achievements of our predecessors who made the nursing a respectable profession with their efforts in earlier years. The present and future members should continue their struggle till such time that a professional nurse is fully recognized and acknowledged as a qualified co-worker of the doctors with her own specific area of competence and responsibility to the suffering and society.

11. MESSAGE

To unite nursing and speak as one strong voice.
Every nurse should become a member of Pakistan Nurses Federation for raising a strong voice of the Pakistan Nurses Federation.



(Mrs. Nisab Akhtar)
Secretary General
Pakistan Nurses Federation

JICA

